

もっと住みやすく 個性と活力のあふれる まちにするために

かすが市民懇話会 平成20年度

(第4期・第5期会員) 活動報告書

平成21年7月29日



はじめに

みなさん、ありがとうございました。今期の「かすが市民懇話会」も楽しく、充実した懇話会だったと思います。これもひとえに市長を始としてスタッフの皆様および会員の皆様のご指導、活発な意見交換、ご協力等の賜と心より感謝申し上げます。

今期につきましては、初回の会員諸氏の種々のご意見、およびこれまでの懇話会の運営内容などを考慮しまして、副会長および事務局の方々とも協議し、次のような考え方で運営致しました。

★「基本的考え方／キャッチコピー」

『勉強しつつ懇話しよう。懇話しつつ勉強しよう。』

★「具体的運営内容」

(1) 勉強

毎回、会員の関心のあるテーマについて、市のスタッフに講義していただく。

(2) チューターによる助言

テーマ毎の各班に市のスタッフに入って戴き、疑問への説明／助言などをいただく。

ビジネスでは、「需要の無いところに供給は無駄。どんな良い商品・サービスでも需要の無いところでは売れない」と言われています。行政においても同じことであろうと思います。

「市民の需要のないところへの行政サービスは意味が無い／無駄」と言えましょう。

春日市は「市民の皆さんから直接、“思いや要望など”を聴いて、市民と共に協働する行政」を基本とされています。出前トークや市民懇話会などを長期に実施されていることがその証左であると思います。『市民の需要／期待』----これが行政の最重要立脚ポイントだと思います。

企業でも需要調査／マーケティングを最重要としています。

今後の日本は、さらに地域の独自性が重要な時代になるであろうと思われます。そのような観点から、懇話会で出ました【問題提起あるいは提言など】の中で少しでも市長およびスタッフの皆様のご参考になる提言等がありましたら、これに過ぎる喜びはありません。

当報告書は次のような内容となっています。第 25 回～30 回（平成 20 年 7 月～平成 21 年 5 月）の「かすが市民懇話会」の懇話内容をまとめたものです。

第一部 各懇話会の詳細内容記録

第二部 詳細内容記録のエキス／ポイント（問題提起・提言等）の“まとめ”

◎特に“まとめ”を参考にいただければ幸いです。

市長および市のスタッフの皆様、特に事務局の皆様方には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。また、副会長、および会員の皆様方には会を盛り上げ充実したものにしていただきましてありがとうございました。

平成 21 年 7 月

かすが市民懇話会
平成 20 年度会長 塚 本 幸 弘

かすが市民懇話会活動報告書 も く じ

1 かすが市民懇話会の概要	1
---------------	---

2 報告内容

第1部 各懇話会の詳細内容記録	2
-----------------	---

第2部 詳細内容記録のエキス/ポイント(問題提起・提言等)	37
-------------------------------	----

【資料編】

・ 第4期会員からのメッセージ	48
-----------------	----

・ かすが市民懇話会会員名簿	57
----------------	----



かすが市民懇話会の概要

1 設置目的

『かすが市民懇話会要綱』第1条により、設置目的は次のとおりです。

行政への市民参画の機会の拡大を図り、市民の率直な意見を行政施策に生かし、市民と行政との協働による市政運営を一層推進していく必要があるため、かすが市民懇話会を設置する。

2 基本的な活動内容

私たちは、かすが市民懇話会を「春日市をもっと住みやすく個性と活力のあるれるまちにするために、市民の視点で捉えた市の課題を行政と協働して解決していくための方策を話し合う場」と捉え、『かすが市民懇話会要綱』第2条により、次の活動を行いました。

- ・ 市の重要課題や施策に関する意見交換及び提言
- ・ 市政の運営に関する調査及び研究
- ・ その他懇話会の設置目的を達成するために必要な活動

また、同要綱に、私たちの活動に対する市行政の対応は、次の通り規定されています。

市長は、提案された事項については、市政の運営に生かしていくよう努める。

3 平成20年度の懇話会の活動

<年間テーマ>

「もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために」

<運営方針>

(1) 各回テーマ及び講話内容について

開催月	テーマ	グループ班	市からの講話内容
9月	福祉支援について	1 高齢者支援 2 障害者支援 3 子育て支援	後期高齢者医療制度について
11月	住環境整備について	1 環境 2 防犯 3 都市整備	春日市の温暖化対策について
1月	コミュニティについて	1 教育の充実 2 人間関係の構築 3 地域社会の構築	歴史文化財、民俗文化財について
3月	春日市の未来像について	1 春日市の財政 2 春日市の誇れるもの 3 春日市に望まれるもの	春日市の財政の基本的な考え方と実状について
5月	年間のまとめ		

(2) 第26回以降の時間配分について

- ・19時～19時10分 開会、会長挨拶、市長挨拶 (10分)
- ・19時10分～19時30分 講話、質疑応答 (20分)
- ・19時30分～20時30分 グループ懇話 (60分)
- ・20時30分～20時45分 懇話内容発表 (15分)
- ・20時45分～21時 講師及び市長所感、閉会 (15分)



報告内容

第1部 各懇話会の詳細内容記録

年間テーマ 一覧		2
第25回 会議録		4
第26回 会議録		5
第27回 会議録		12
第28回 会議録		19
第29回 会議録		26
第30回 会議録		31



年間テーマ一覧

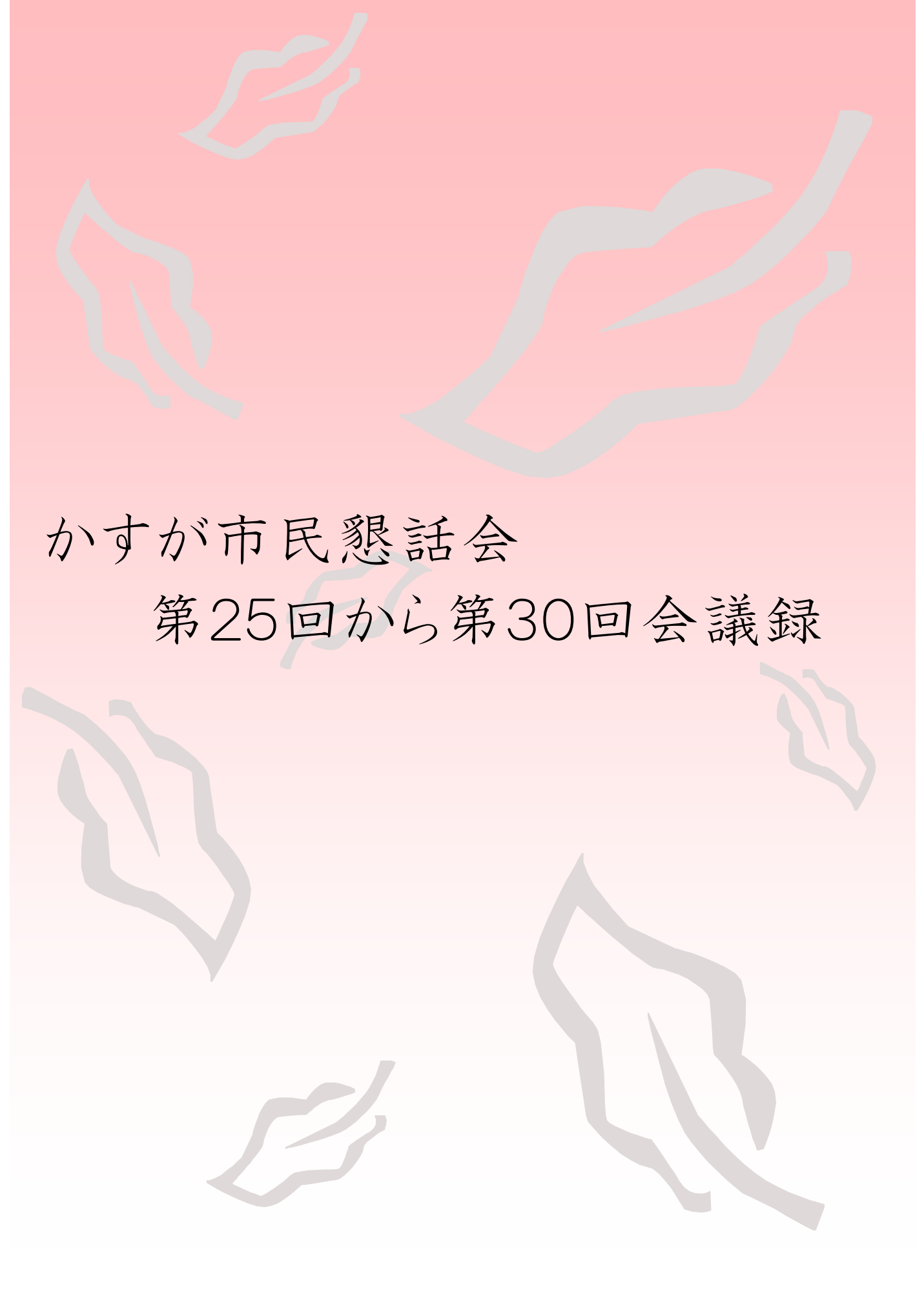
【年間テーマ】

「もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために」

～ 会員から懇話会で話し合っていたいテーマの取りまとめ ～

項目		テーマ
1 福祉支援について (26回)	高齢者支援	1 後期高齢者保険制度 2 高齢者にとっての働ける環境づくりとは 3 高齢者にとっての健康維持、体力増進をしていくには 4 少子高齢化 5 高齢化に対して対応できること、できないこと 6 地域住民の高齢者対策 7 独居の方とのつながりを保つには 8 高齢者にとって春日市は住みよいか
	障害者支援	9 精神障害者自立支援について(資金、人、施設、職場など) 10 障害者にとって春日市は住みよいか
	子育て支援	11 児童センターについて 12 まともな大人に育つような、地域の人でできる子育て 13 乳児医療制度の改正 14 子ども達との和を広め、子どもの明るい未来をひらくには 15 子育て支援に関するニーズや問題点 16 これからの世代を変える子供達、青少年の心の育て方
2 住環境整備について (27回)	環境	17 春日市から 無くなって行く、畑・田んぼ・ため池 18 地球温暖化防止と家庭、職場、地域でやればできること 19 「住みやすい環境であり続ける為」にはどうすればよいか 20 温暖化に備えての地域の動き 21 もっと住みやすく、安全で、地域振興できる街にするには 22 ビン、カン、金属、陶器の分別方法 23 春日市の環境面 24 道などにゴミのない美しい町にするには 25 地球温暖化などの環境問題に市をあげて積極的に取り組み
	防犯	26 防犯 27 青少年犯罪の増加(やさしくて・おとなしい・良い子が、ある日凶行に走る原因と対策) 28 地域の防犯活動 29 「防犯カメラ」の設置と、その意義と意識付け
	都市整備	30 まちづくりに関するニーズや問題点 31 コミュニティバス「やよい」の活用 32 道路行政の見直し 33 駅前のゆとりある空間の確保(西鉄、JR共)

項目		テーマ
3 コミュニティの活性化について (28回)	教育の充実	34 子供の教育環境(学校、家庭)の現状と市の取り組み 35 学校間の格差 36 小学校、中学校への参加(職員や先生方に何かお手伝いが出来ることが出来たら良い) 37 「春日市の学校教育の7つの特徴／積極的な施策」 38 学校・PTA・育成会の役割(役割を考えるために成り立ち・歴史・変化について考えたい。) 39 学校・家庭・地域の連携と学社協による取り組み 40 地域の生涯学習における教養づくりと計画 41 春日市の学校教育の現状把握及び問題点の改善 42 郷土史をベースにした青少年教育 43 歴史資料館事業の統合と充実 44 スポーツや体育を通じた、春日市の「健康で住みやすいまちづくり」 45 スポーツを通じた礼儀作法について 46 公民館などで映画をして、心の安定を図るには 47 夢探し(生涯学習の充実) 48 ふれあい文化センターと資料館などを結び役立てる 49 勉強できるようなスペースの確保
	人間関係の構築	50 モラルの向上 51 老人会と保育所の併設 52 団塊の世代の受け皿(まちづくり塾の推進) 53 ルールやマナーを守らない市民に気づいたら、どのように、誰が、口利きをして改めさせるか 54 行政と地域の人々の、気軽に身近なふれあい 55 老人、子供、障害の配慮がある、住み良い春日にするためには 56 老若男女で同じ問題の取り組み(まちづくり塾の推進) 57 幼児、小学生から大学生まで触れ合えるような取り組みやイベント 58 常識のない若者、20～30歳代の壮年たちとの接し方
	地域社会の構築	59 小学校区ぐらゐの地域でのコミュニケーションのあり方 60 おやじの会のメンバー増員方法 61 地域で子供達を育てる為には 62 向こう三軒両隣の意識を持ち、住みやすい地域に 63 子供が安心して元気に遊べる街づくり 64 心豊かな我が町っ子育成と保護者の積極的な地域参加 65 隣近所の付き合い 66 各地域活動に対する支援状況及び問題点の改善 67 自治会組織の活性化を図り、近隣住民が相互に連携の取れる組織整備 68 親子清掃 69 市民のまちづくりや行事に多くの市民の参加 70 自治会、公民館の一本化に伴う功罪 71 向う三軒両隣と地域活性化のつながり
4 春日市の未来像について (29回)	春日市の財政	72 予算の立て方(優先順位の検討) 73 春日市の財政状況の現状把握及び問題点の改善
	春日市の誇れるもの	74 郷土史をテコにした町おこし 75 高い人口密度 76 身近な文化 77 弥生時代の貴重な文化財、歴史的環境、美しい自然景観の見直し、継承
	春日市に望まれるもの	78 古い慣例を(特に市役所職員採用等)変えるには 79 市長の考えを市役所内部で活用させるには 80 「春日市の強み／弱み」(さらに深い議論、及び1年後の状況評価・検証) 81 ふれあい文化センターの駐車場の活用 82 市民全員に、行政やまちづくり、市内の情報を解りやすく表示するには 83 市、行政、地域に「関心がある」から「参加していく」への道のり 84 この街に愛着心をもってもらう方法 85 春日市の社会福祉の現状把握及び問題点の改善 86 市民のための市政実施状況の現状把握及び問題点の改善 87 公平・公正な判断による市民の要望事項・苦情相談処理状況 88 市役所職員の市民への対応状況 89 住み易い春日市作り施策 90 ボランティアの活用 91 さまざまな「ボランティア活動」 92 春日市でいろんな活動をしている人を市民に知ってもらい、活動できるようするには 93 市の施設に民間の力(指定管理者制度)の導入(企画力、コスト減、ユニークさ等) 94 市内の案内板等を統一して、外からも解りやすい春日市を作っていくには 95 お年寄りや子ども、障害者など、誰もが住みやすい町、市にするには 96 若い人達が興味を持てるような取り組み

The background of the page is a light pink color. It is decorated with several stylized, grey leaf-like shapes that are scattered across the surface. These shapes are simple outlines with some internal lines, giving them a modern, graphic feel. They are positioned around the central text, with some larger ones and some smaller ones.

かすが市民懇話会

第25回から第30回会議録

第 25 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 20 年 7 月 31 日（木）
- 2 時 間 午後 7：00～午後 9：30
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 26 名
春日市長、総務部長、行政管理課長、事務局（行政管理担当）
〔欠席〕：伊藤智幸、江口泰子、川田絵美、渡辺昌代

5 会議の内容

- (1) かすが市民懇話会第 5 期会員依頼書交付
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会員自己紹介
- (4) かすが市民懇話会概要説明
- (5) かすが市民懇話会役員互選

かすが市民懇話会要綱第 4 条の規定に基づき、会長及び副会長の互選を行った。

会長 1 名、副会長 3 名を選出する。なお、中村 一登前会長が議長を務めた。

会長：塚本 幸弘（市民公募会員 平成 19 年度 副会長）

副会長：山田 恵美（市民公募会員 平成 19 年度 副会長）

三室 日朗（市民公募会員）

中村 文香（市民公募会員）

(6) 活動方針協議

主な意見

- ・「もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために」という年間テーマの下、4 つの中テーマを設け、9 月以降の 4 回において協議する。その際、さらに 3 つの小テーマ毎の班に分かれ、各自興味のある班に所属する。
- ・小テーマのいずれに入りたいかを事前に把握し、人数状況次第では、人数調整をしてはどうか。
- ・班の構成として、役員、市民公募会員、団体推薦会員がバランス良く配置されるようにしてはどうか。
- ・予算関係を含め、討議をする時期や内容の優先順位を考慮してはどうか。
- ・テーマ毎に、春日市の取り組んでいることについて、事前に各所管の職員から説明してもらい、その上で討議をすれば、議論が深まるのではないかな。
- ・懇話会で話し合ったことをとりまとめ、市に提言してはどうか。
- ・とにかく 9 月に 1 度してみればよいのではないかな。

(7) 市長あいさつ

(8) 閉会

第 26 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 20 年 9 月 29 日（月）
- 2 時 間 午後 7：00～午後 9：05
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 22 名
春日市長、総務部長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局（行政管理担当）、市民部長、高齢課長、福祉支援課長、
子育て支援課長
〔欠席〕伊藤 智幸、川田 絵美、森 俊子、上野 元公、齋藤 泰英、
後藤 英之、藤瀬 淳也、

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 後期高齢者医療制度について（講師：清水市民部長）

今日は、後期高齢者医療制度について、出来るだけ皆様に分かりやすく説明させていただきたいと思っています。

現状の医療制度の説明に入る前に、なぜ、後期高齢者医療制度ができたのか、その背景から入ったほうが分かりやすいと思います。医療費の動向ということで、医療費の額は実感として掴みにくいと思います。国民全体の医療費ですが、厚生労働省の資料によると総医療費は平成 13 年度が 30 兆 4,000 億円、19 年度が 33 兆円 4,000 億円です。この間、3 兆円増加しています。そのうち、老人医療費については、13 年度では 11 兆 7,000 億円、19 年度は 11 兆 3,000 億円となっております。老人医療費の総額が若干下がってきていますが、これは、老人保健法の対象年齢が最初は 70 歳だったのを、段階的に 75 歳までに引き上げた結果として、切替期間中は対象者が減ってきたことによります。また、国民 1 人当たりの医療費を見ると、平成 13 年度で年間 239,000 円、19 年度では 262,000 円となっております。1 人当たりの老人医療費は平成 13 年度で 758,000 円、17 年度、822,000 円、18 年度 834,000 円、19 年度では 871,000 円となっており、年々増加しています。福岡県については、平成 17 年度で、1,019,650 円となっており、日本で一番高い県となっています。長野県が全国的にみて一番安く、672,853 円です。しかし、これらは医療費の現状であって、医療費が高いからいけない、と言っているわけではございません。医療機関での早期発見・早期治療をすることは、本人の健康管理上必要なことであり、その結果としてこの金額になっているともいえます。

次に、医療制度の変遷についてです。昭和 36 年に国民皆保険制度が実現したと言われていす。全ての国民が何らかの医療保険に必ず加入するということで、安心して医療を受けられるという、世界に冠たる日本の皆保険制度が出来あがりました。医療保険制度は、昭和 56 年まで、一貫して経済が順調であった時代において、給付割合が 7 割になり、老人医療費が無料化され、被用者保険の被扶養者の給付割合も引き上げられていくという、自己負担割合を少なくしていくような改正が行われてきました。しかし、経済が高度成長から安定期に入ってきた 58 年頃から、増え続ける老人医療制度において、老人医療費に対する国等の財政負担が年々困難になり、

その結果として老人医療費に一部負担が導入されたり、社会保険本人についても給付割合が下がってくるようになりました。制度として、初期の段階では出来るだけ皆様の自己負担を減らすための見直しから、現在は、保険加入者に負担増をお願いしていかなければならないようになっていきます。

そこで、今回の医療制度の改革が行われました。国は、後期高齢者医療制度について、10年来の検討を重ねてきたといっています。具体的には、平成15年3月に、医療制度改革の基本方針を出しています。これは、今年の4月から実施している後期高齢者医療制度の基本的な考え方であり、その骨子は、

- ① 安定的で持続可能な医療保険制度の構築をすること
 - ② 給付の平等と負担の公平
 - ③ 良質かつ効率的な医療の確保
 - ④ 保険者の再編・統合及び新たな高齢者医療制度の創設
- となっています。

特に、高齢者医療制度の基本的方向として、

- ① 個人の自立を基本とした相互扶助
 - ② 年金開始年齢や介護保険制度の対象年齢の整合性を考慮し、また、一人当たりの医療費が高く、国保、被用者保険の制度間で偏在が大きい高齢者のそれぞれの特性に応じた新しい制度とする。
 - ③ 老人保健制度及び退職医療制度の廃止、見直し
 - ④ 現役世代の負担が過重なものとならないようにする。
 - ⑤ 後期高齢者については、全ての加入者が保険料を負担する。
- となっています。

それから、政府の骨太の方針、厚生労働省の医療制度構造改革の試案等を経て、医療制度の改革が行われました。平成18年10月から、健康保険法等の一部改正として、

- ① 現役並みの所得を有する高齢者（70歳以上）の負担割合を2割から3割に引き上げる。
 - ② 療養病床に入院する高齢者の食費及び住居費の見直し
- がなされています。

そして、平成20年4月から高齢者の医療の確保に関する法律が施行され、後期高齢者医療制度が実施されています。18年3月末の医療保険制度の加入者数は1億2千800万人で、37%である4,769万人が国民健康保険の加入者であります。また、70歳以上の約8割の方が国民健康保険の加入者でした。国民健康保険は、他の保険制度に比較して高齢者の加入割合が高く、また、失業された方、病気の方、定年退職による年金生活者というように、どうしても他の被用者保険に比べて加入者の所得が少ない中で、保険制度を運営していかなければならないという現実がありますので、このようなことを踏まえ、抜本的な改正として後期高齢者医療制度が出てきたわけです。

後期高齢者医療制度の対象者は75歳以上ですが、国民の皆様からお叱りを受けている理由の一つとして、「なんで、75歳と勝手に線を引くのか。」ということもあります。これについては、老人医療制度の引継ぎだからということもあります。また、保険料についても、国民健康保険の加入者については、年齢に関係なく全ての方が国保税の算定基礎の中に含まれています。一

方、被用者保険の扶養家族等で、これまで保険料を納めていなかった方も含めて、後期高齢者医療制度の加入者全員が保険料を負担することになりました。それから、この制度の趣旨としては、国民全体で支えることにあります。そして、保険料の決まり方ですが、原則として医療費の1割は窓口負担です。窓口負担を除いた医療費については、50%（国：県：市町村＝4：1：1の割合）を税金で賄い、10%を加入者の方に保険料として負担していただいています。そして、残りの40%は、現役世代の方が保険料として負担する後期高齢者支援金です。この現役世代の支援金については様々な議論がありますが、0歳から74歳までの方が加入している保険制度を通じて負担していただくことになっています。国保であれ、被用者保険であれ、自らの医療費にプラスして後期高齢者支援金を支払うことになります。後期高齢者医療制度は、加入者全員が保険料を払った上で、医療給付費の給付を受けることになっています。従前の老人医療制度は、このような制度ではありませんでした。老人医療制度は、国保、被用者保険等の医療保険制度と別の制度であって、一言でいえば、加入者から直接保険料を徴収せず、公費（税）と他の保険者からの拠出金で制度運営をしていました。そこでは、医療費がどういう額になっても、必要な分は、公費と保険者で負担するということになりますので、制度運営の責任が明確でないといわれていました。国保等の医療保険者は、基本的には、加入者が負担する保険料と、国、県からの補助金とで、医療費の支払いをしなければならず、収支のバランスをとる責任があります。

また、なぜ年金から一方的に保険料を差し引くかという問題も、今回見直され、申し出により口座から引き落とすこともできるようになりました。

最後に、どうやってこの日本の医療制度を、安定的に運営していくのか、増えつづける医療費の負担を誰がするのか、高齢者、現役世代、公費（税）の負担割合をどうするのかといった制度の根幹に係る重要な課題があります。後期高齢者医療制度は始まりましたが、さまざまな問題があるのも事実です。

(4) グループ懇話

もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために

9月のテーマ『福祉支援について』

1班 高齢者支援

2班 障害者支援

3班 子育て支援

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

1班 班員 井口 謙氏（発表）、横山 信美、大坂 康、黒川 裕子、
進 まゆみ、三室 日朗、池田 正廣、鏡山 雪子、
福富 克一郎

高齢者支援（担当職員：成富高齢課長）

保険料が高くなったということで、自分の環境のことが出てきました。いろんな制度があると思いますが、内容がとにかくわからないし、どうしてこうなったのかという意見がいきなり出たということでした。これについては、前から決まっていることでしたので、むしろ聞く耳を持っていなかった、自分の環境を知ろうとしなかったということがあったのではないか、という意見が出ています。市長も毎年公民館に来られていろいろ説明をし

ていらっしゃるんですが、実際に来ている人達は市民のうちのほんの一握で、この方たちは、意識が高いのである程度納得されているのではないかと思います、その他の出られない方がわからないのかなと考えました。

それから、制度自体は国で決められているので、しょうがないのですが、医療負担の金額が余計にかかっているのではないかと思います。例えば、いらない薬を多くもらって医療費が高くなっているということもあるのではないかと、ということです。

また、皆さん認識なかったことでは、春日市だけでなく、今度の保険制度が県単位になったので、どうしても保険料が高くなってしまうという面があるということで、春日市だけの問題ではないことも挙げられました。

話は飛びますが、ラジオ体操をすれば5年寿命が延びるということも聞きました。私たちの班では、最初から最後まで医療保険の話となりました。

2班 班員 山田 恵美（発表）、大石 昭子、塚本 幸弘、渡辺 昌代、
伊藤 信輔、中村 文香、多門 妙子

障害者支援（担当職員：中村福祉支援課長）

日本は税金の取り方が、ジリジリと上げてちょこちょここと変え、その場しのぎの対応が多いので、外国のように消費税を20%くらいに上げて潤沢な資金があれば、福祉支援にもお金が回せるのではないかという話がありました。

また、急に障害者の方を引き受けるといっても自宅を改装したり、車も買い換えて改造したりして、経済的にも精神的にも時間的にもたくさん労力を使うので、その分の支援を私たち1人1人が担っていかれたらと思いました。

日本はサラリーマンが多くなってしまったので、定年となり、いきなり社会から切り離されてしまった人達が病気になったりすることがとても多いので、昔の農家のように、自分たちで出来ることを一生涯社会とつながって分担していくことが、自分の健康を保つのにいいのではないかという意見が出ました。

春日市の障害者支援の予算について、平成18年度が6億9000万円、19年度が7億7000万円ということで、自立支援法が出来てから金額としては毎年上がり、これからも上がっていくだろうとのことでした。総支出の3%というのは、大体の市町村で同じであろうとのことでした。

春日市では、自立支援活動として、ぱれっと館での清掃事業についても、今までは民間委託だったものを障害者の方に委託するようになってきているようです。

後半に盛り上がった話として、身体障害や知的障害の方は見た目で見分けると思いますが、精神障害は見た目では分かりづらいので、周りの方や家族の方の理解がない場合もあり、家族が隠したりすることがあるということです。外に出たときに障害者手帳を出すにしても、まわりから見れば健康そうなのに、手帳を出さなければならないという精神的につらい立場から、一層自分を落ち込ませてしまうということが多いという話も出ていました。

最後にどうすればいいかということですが、社会参加、働く場があったらいいのではないかと、また、本人が外に出て行こうという気持ちがなければ、自信をなくし、一層引きこもってしまうという悪循環になっているので、是非家族や地域のサポートがあればいいの

ではないか、さらに、また病気などで突如障害をもってしまうことも多々あると思いますので、春日市福祉支援課を訪ね、いろいろな情報をいただければいいのではないかと思います。

3 班 班 員 田口 誠市（発表）、上野 直麻子、梅崎 孝彦、
柿本 人司、小田 晴美、日田 美智子

子育て支援（担当職員：青木子育て支援課長）

意見内容ですが、1 番目として、子育て支援活動についてです。親と子の活動の仲間作り、これは、明るい子どもにするためにという話だったと思います。それと、親と子のふれあいを大切に、ということだったと思います。

2 番目ですが、明るい育児グループ作りについてです。ファミリーサポートグループ作りの活動と講座のいろいろな推進が行われています。特に春日市は、隣接する市に劣らないほど、悩み事のある子どもや保護者の支援センター電話窓口がしっかりしていると思いました。

3 番目に、たんぽぽルームの活動内容がどのようなものかということが話されましたが、一度中身を見てみたいと感じました。それから、幼児の活動中の安全について話がありましたが、幼児は室内行事、こども会については屋外行事が多いということで、危険回避ということが子ども会では守られているようですが、育児の場合には室内ということで、やや安心感があるのではないかと思います。

4 番目に子ども会の進路について。これは校区制と地区制があります。いろいろ長所と短所がありますが、これについては議論されていません。しかし、大野城市や福岡市の場合は校区制で、春日市は地区制になっています。校区制というのは、学校で勉強したらそのまま子どもが地区で活動する。地区制というのは、一つの校区で勉強したら 4 つの子ども会の地域があり、それが一つにまとまりながら雑務競合し、活動する。これを議論しました。

あとは、子どもの防犯活動についてお話をしました。

以上です。

(6) 市長所感

熱心に意見を出していただきまして、本当にありがとうございました。今回初めて、所管の課長を交えて皆様方の意見を聞かせていただきましたが、いかがでしたでしょうか。こういうことがお役に立ったのであれば、これからも遠慮なく課長を呼びまして、聞きたいことや疑問を解消していただければと思っております。

最初に高齢者支援について井口さんに発表していただきましたが、今一番話題になっていますのが、後期高齢者医療、いわゆる長寿医療保険とっておりますが、これも見直しがなされるということですが、一番困っていることは、現場で事務的な手続きをしているのが市町村でございまして、法律が変わるたびにてんてこ舞になっております。しかも、先ほど部長もお話しましたが、我々も一度聞いた限りではなかなか分かりません。分かりやすいパンフレットをご用意したつもりではございますが、これでもなかなか分かりませ

ん。ですから、皆さんも同じような気持ちになられたかとも思いますが、何とかわかりやすく、地域に出向きながら説明していきたいと思っております。要するに一番大きな違いとしましては、今の制度では、各都道府県で 75 歳以上だけで別に医療保険の広域連合をつくったわけです。特に今までは、いろんな保険がございました。社会保険や国民健康保険などです。とくに国民健康保険は高齢者の方や自営業をされている方、所得の低い方や失業された方が対象になっておりまして、従来は国民健康保険という特別会計があり、加入者の方から保険料を頂いてこの保険を運用していこうというものです。しかし、どこの市町村でも言えることですが、この保険料だけではとてもまかない切れません。春日市は、毎年約 10 億円を一般会計予算から国民健康保険の特別会計に繰り入れています。他の保険に入っておられる方もいますが、全ての市民の方から税金を頂きます。頂く全ての市民の方からの税金が約 120 億円で、その中から 10 億円を国民健康保険のために入れています。だから、社会保険料を払っている方も市民税を払うことで、その中から国民健康保険税に、毎年トータル 10 億円を入れているというように、これはどこの市町村でも赤字であります。が、それでも何とかもててきました。それなら、保険料を上げて、国民健康保険に加入されている方のみで運用されるのが本来のあり方ではないかと言われますが、現実はいきません。もし保険料を上げてしまいますと、払えない方も出てきます。ところがこれが市町村から切り離されて、広域連合が 1 割しか負担しなくなりました。保険者の中身が変わってきたものですから、どうしても所得の高い方の多い地域と少ない地域が福岡県の中にもあります。ですからここが一括ということになってしまいますから、保険制度ということからすると所得の高い方が低い方の面倒をある程度みていただかないという制度になりまして、自ずと保険料が高くなってまいっていることです。ですから、次に我々が心配していますのは、国民健康保険を見直されるのではないかとということで、どこの自治体も四苦八苦しております。いずれにしても避けて通れないという現実がありますが、誰からも税金を取っていいというわけではございませんので、ここは、きちんと払っていける範囲内で払っていけるような福祉の精神を忘れてはいけないと思っております。過渡的な時期ですので、混乱も多いと思いますが、制度が変われば出来るだけ皆様にお伝えしていこうと思っております。

次に、障害者支援についてでございます。これも端的に言いますと、知的、身体、精神とありますが、これが一本化され自立支援法ができたのですが、これも負担料の増加がございます。春日市では、中程度の障害者の方の働く場所がなかなかなかったものですから、ぱれっと館の清掃部門で清掃の仕事をさせていただき、賃金を支払い、自立をしていただくことを、今年からスタートしました。その背景には、家族会の方々が高齢化してきたということがあります。将来自分の子どもがなんとか社会で生活できるように、そういうシステム作りをしていかなければ、安心して老後を過ごせないという切実な話を聞いてまいりました。図書館で本の仕分け等をしていただくということも実施しています。ですが、次に問題になってくるのは、生活支援です。グループホームといいまして、保護者の方が一緒に生活できなくても、こういった方々が何人かで生活できるようなものを小倉にも一か所つくりました。なかなか他所ではしていないことをしていますので、これからも保護者の方や関係者の方の意見交換をしていきたいと思っております。

次に、子育て支援についてですが、これも全市的にお子さんの見守り活動が増えてまいりました。老人会の方、地域の公民館の役員の方や自治会役員の方々が、おそろいのジャンパーや腕章をつけて朝夕に活動をしていただいたのですが、一部実施されていない地域もあるということで、何か実現できるような糸口が無いものかと思います。できましたら、保護者の皆様から、地域や保護者会、PTA や育成会の中で子どもの見守りや安全をどうするかということに関心を持っていただけると、もっともっと子どもたちの安全が図られていくのではないかと思います。

今日も皆様の意見を聞かせていただきまして、なるほどな、そういうこともやっていかんといかんと感じさせられる点が多々ありました。本当にありがとうございました。

(7) 閉会

第27回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成20年11月21日（金）
- 2 時 間 午後7:00～午後9:10
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 18名
春日市長、総務部長、行政管理課長、行政管理担当係長、
事務局（行政管理担当）、環境課長補佐、地域づくり課主幹、道路防災課係長、
都市計画課長補佐、都市計画課係長
〔欠席〕伊藤 智幸、上野 直麻子、大石 昭子、川田 絵美、森 俊子、
横山 信美、上野 元公、井口 謙氏、小田 晴美、鏡山 雪子、
藤瀬 淳也

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 春日市の温暖化対策について（講師：白水環境課長補佐）

春日市の温暖化対策として、市民で出来る取組についてお話いたします。

地球の周りには大気があります。その組成は窒素が一番多く、約78%を占めています。その次に、酸素が約21%、それからアルゴンガス等があります。また、大気中には温室効果ガスというものが含まれています。これは、太陽から来る熱を一定程度逃がさず、地球の平均気温を15度に保つという重要なもので、このガスが無ければ、地球の温度はマイナス18度になると言われています。温室効果ガスには、8種類ありますが、一番身近なものが二酸化炭素で約60%と最も多く、その次がメタンガスで約20%、あとは、フロンガス等々があります。この温室効果ガスは人間によって増やされ、地球を温めています。温室効果ガスは石油石炭といった化石燃料を燃やしたときに発生するものですが、これがいつから増えてきたかということ、イギリス産業革命があった1800年以降であり、このときから地球の温暖化が始まったということです。

続いて、世界と日本の状況ですが、20世紀の100年間で、地球の平均気温は約0.6度、日本では、約1度、都会では2度近く上昇したといわれています。学者の集まりである「IPCC（気候変動に関する政府間パネル）」では、温暖化による色々な影響が予測されています。その予測ですが、今後100年間で世界の平均気温が最大で6度、海面が60センチ程度上昇するということです。また、温暖化が進むと、砂漠化の進行、海面の上昇、感染症の増加、ハリケーンの強大化、水不足、氷河の後退、植生の変化、サンゴの白化、棚氷・氷床の減少といった事象が懸念されます。特に海面の上昇については、ツバルといった島々が水没するといったことをよく見聞します。日本でも、海面が65センチ程度まで上昇すると、日本の全体の砂浜の80%以上が無くなってしまいます。このような状況で台風や津波が来ると、経済的には約300兆円の被害が出るのではないかという説も出ています。また、食料の減産や南方に生息する蝶々が北上してくるという影響も出てきています。

次に、日本の削減目標についてですが、日本は世界で4番目に多く温室効果ガスを排出しています。1番にアメリカ、2番が中国といわれていますが、最近では、中国がアメリカを追い越

したのではないかとわれています。その後、ロシア、日本、インドと続きます。京都議定書では、1990年のCO2排出量12億6100万トンに対し、6%削減することを目的と定めていますが、平成18年は逆に6.4%増え、平成19年も平成12年に比べ2.3%増加しており、目標の達成には、あと15%削減しなければならず、日本として国際的な約束を果たすことは困難だともいわれています。その内訳ですが、産業部門のCO2排出量は1990年に比べ、約5%削減されていますが、民生の家庭部門が約30%、スーパー、百貨店や事務所などの業務関係が約41%増加しています。

続いて、本市の温暖化対策です。春日市では、省エネルギー温暖化対策推進計画を策定しており、その中で3つの目標を掲げています。1つ目に、各家庭の電気・ガス使用量を平成15年比で9%削減することがあります。ですが、昨年の時点で約11%増加しています。2つ目として、燃えるごみを3%減らすということですが、こちらについては、平成18年からごみ袋を有料化させていただいたおかげで、約8%減少しています。3つ目として、自家用車のガソリン使用量を1%削減するというのですが、普通車から軽自動車へ乗り換えが進んだことや、原油高もあり、これについても約14%減少しました。ソフト面での対応が、この計画のほとんどであり、市では、市報や10月の環境フェアを通じ、市民の皆さまで取り組める様々なエコ活動の取組の紹介をさせていただいています。また、車については、ノーマイカーの街頭啓発を6月に実施しましたが、まだまだ、力が及んでいないと感じています。

本日の主題ですが、私たちで出来る取組として、春日市環境基本計画、弥生の里春日環境プランの中にも皆さんに実施していただきたい行動を掲載しています。さらに、平成19年から市報に毎月1回、「STOP地球温暖化」というものを連載しています。温暖化を少しでも防止するために、できることから始めようということで、いろいろな取組を紹介しています。また、エコファミリーカレンダーというものの中でも取組を多数紹介しています。このカレンダーをもとに省エネルギー・省資源に取り組んでいただければご家庭がありましたら、同封されています申込書に必要事項を記入していただき、環境課に提出していただけたらと思います。また、エコドライブも推進しており、市職員に対して研修を実施しています。

これだけ多くの取組があり、どれから手をつけてよいかわからないということもあると思います。そこで、「家庭でできる10の取り組み」を掲げています。これらを全て実施すると、年間最大約40,700円節約できるということです。一つだけでもチャレンジしていただけたらと思います。

最後となりますが、ケニアの女性環境保護活動家である、ワンガリ・マータイさんがおっしゃっています、「MOTTAINAI」という言葉があります。すべての行動がもったいないとなれば、自然と省エネや温室効果ガスの抑制につながると思います。ちょっとしたことから、もったいないという気持ちで生活していただければ、私たちが出来る取組につながっていくのではないかと思います。

(4) グループ懇話

もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために

9月のテーマ『住環境整備について』

1 班 環境

2 班 防犯

3 班 都市整備

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

2 班 班 員 山田 恵美（発表）、渡辺 昌代、伊藤 信輔、梅崎 孝彦、
三室 日朗、田口 誠市

防犯（担当職員：重松地域づくり課主幹）

防犯については、皆さん、なかなか分からないことが多い中で、チューターの方のお話を聞かせていただくことができました。驚いたことがたくさんあり、疑問も解決され、とても充実した話し合いとなりました。中でもびっくりしたのが、全国の警察署管内での刑法犯発生件数は、筑紫野警察署管内が一番多く、平成 18 年が全国ワースト 1 位、19 年がワースト 2 位ということでした。中でも、人口が多い春日市での犯罪件数が多いそうです。しかし、筑紫野警察署管内は約 43 万人という多くの人を抱え、エリアも広いので、人口 1,000 人当たりでの発生率は、全国 1 位ではないということです。

春日市では、平成 21 年末までに、犯罪件数を前年の 3 割減少させることを目標としてパトロールなどを行い、平成 19 年は 11%減、今年は 14%減ということをお聞きしました。また、交番が統廃合され、少なくなっていくということや、交通事故が起こり、その処理に行けば、交番に戻る間もなく次の事件現場に向かわなくてはならず、交番があっても安心できないことから、パトロール強化を実施しているということでした。あと、お聞きしたことでは、ボランティアで、子どもたちが帰る午後 3 時から 4 時あたりまで、夜は 9 時から 10 時まで、自治会が中心となってパトロールを行っているということや、筑紫野署管内では、ついで隊があり、こちらに登録して黄色いバッジを身に付けることで、防犯に携わっていくことができるということ、また、窃盗犯の人は、一度すると何回でもするというので、再犯が多いということもお聞きしました。

どうすればそれを防げるかということですが、まずは自己防衛ということで、バッグは道路と反対側に持つとか、自転車のかごには財布等を無造作に置かないということ、自治会等のパトロールに参加していくということが大切だということでした。また、ご年配の方たちの中には、年金を引き落とすときにひったくりによく遭っているということで、特に年金支給日に金融機関を重点的に警備する、また、街灯を増やしたり、自治会のパトロールに参加してどこが危ないのか自分たちの目で確認していくことが大事なのではないかということでした。最初にも話したとおり、防犯についての知識が足りないなと実感しましたので、2 か月に一度発行される安全安心まちづくり通信といったもので勉強していかなければいけないなと思いました。

1班 班 員 日田 美智子（発表）、塚本 幸弘、大坂 康、黒川 裕子、
中村 文香、後藤 英之、多門 妙子

環境（担当職員：白水環境課長補佐）

まず、環境のためには、公園、緑地が必要で、諸岡川親水緑道の地図もあればいいなということでした。

次に、企業や団体の環境保護のための活動管理の世界共通基準である ISO14000 について、春日市ではどうなっているのかと聞きますと、春日市では、管理やコスト面で、もっと身近な安い方法をとっているということでした。

3 番目には、身近なところから出来ることをキーワードとして環境を考えるということで、例えば、雑紙は使っても捨てずにリサイクルに出したり、企業や事業所では裏紙を使い、雑紙をごみとして出さないだけで、ごみ袋が少なくなり、焼却費用も安くなったという話がありました。ある地区では、15Lのごみ袋ができないかという意見が出たそうです。今回の話し合いの身近なこととしては、資料が入っている封筒はいらないのではないかとということです。

また、春日市では、分別の種類が他の市町村よりも緩いのではないかという話もあり、これについて春日市では、福岡市の焼却場を利用して、福岡市と足並みをそろえているとのことでした。また、分別の分類が多ければ多いほどよいのかというと、そうではないそうで、分類を増やすのにもコストが掛かり、また、集めたプラスチックも 4 分の 1 しか再利用できるものがないそうです。春日市では、分別にお金をかけるのではなく、燃やした熱をエネルギーとして利用しているとのこと。あと、収集のサイクルですが、今、ビンや缶の収集が多いようですが、世の中の流れとして、プラスチックの方が多いのではないかとお聞きましたが、これについては、今後調べるとのことでした。

また、会議などでペーパーレス化をし、メールでのやりとりができる人はメールで、紙も必要最低限しかプリントしないといった、個人個人の意識付けが大事なのではないかとということです。

3班 班 員 齋藤 泰英（発表）、柿本 人司、進 まゆみ、池田 正廣、
福富 克一郎

都市整備（担当職員：中川道路防災課係長、近藤都市計画課長補佐、
能見都市計画課係長）

小学校校区分け、コミュニティバス、道路行政、駅前計画という 4 つの切り口がありました。

最初に、学校の校区分けについてですが、コミュニティの場ということもありまして、一つの学校に地域全体から通えるような方針で進めて欲しいという要望も上がっております。ですが、市長の見解として、まちが狭く自治会と校区がうまくマッチングしないということや、地域的には北部は落ち着いているのですが、南部の人口が増加してきていること、また、当時は戸建が中心であったのですが、マンションが増加したことによる長期的な展望等も今後の反省点がそこに隠されているのではないかとということです。また、春日市の中に 10 丁目まであるような地区があり、春日市は、4 キロ四方の広さなのでは、

あまりにも細分化されすぎているのではないのでしょうかということです。自治会が 500 人体制かなにかで、公民館が一つのベースとなっているので、これもちょっと明快な回答は得られなかったのですが、ちょっと考えるべきではないかと思います。

次に、コミュニティバスですが、6 年目を迎えて、約 25 万人の方が利用しているそうです。ところが、未利用の方が約 60%、知名度としては約 90%です。大野城市との比較もよく出てきたのですが、大野城の場合は、バス路線が廃止になったかわりということが一つのベースとしてあるそうです。ところが、春日市の場合は、午前 9 時から開始ということです。それと、ふれあい文化センターが、乗り換えの拠点になっているのだということ、待ち時間が 35 分くらいと長く、大野城市の場合は 30 分くらいで結構回りがいいのではないかということです。また、意見として、乗り遅れると待ち時間が 50 分と長くなるのではないか、それから、外側の環状線はどうなのかと市に問いましたところ、費用がかかりすぎるだとか、また、利用者の、回数券の話もでたのですが、やはり利用率の問題とかで、大野城は回数券を発行していると思いますが、その関係がまだまだ考える余地があるのかなと思います。

つづいて、道路行政ですが、これも福岡市と春日市のバランスで進めていくべきなのかなと。県では、宝町と泉までを急に整備している最中であるとか、春日市の場合は、都市計画道路の区画整理をよくやっているの、その面では、個人的には評価しているのですが、ただ、田舎道に入ると、馬車道のようにカーブが多いという意見や、カーブミラーの整備であるとか、歩行者優先のために何をすべきかなど、課題が多いと思います。

あとは、駅前計画ですが、春日市の顔ですので、春日原駅の整備状態に関心を持っています。平成 15 年から 26 年までの計画で、現在、雑餉隈駅から下大利までの 5.5 キロが高架化になるようですが、あと 3、4 年ほど計画が延びるのではないかということです。土地の買収関係が難航している状態でもあります。高架の両サイドに側道が整備される予定ですので、旧筑紫郡の福岡市との関連もよくなっていくのではないかと思います。

(6) 市長所感

今日もあっという間に予定の時間がまいりましたが、熱心にご意見を出していただきまして、本当にありがとうございました。

最初の 2 班からは、防犯についてのお話でした。筑紫野警察署管内での犯罪発生件数が、全国でも悪い方を推移していますので、なんとかこれを改善するために、ついで隊を実施したり、毎月第 2、第 4 金曜日を全市一斉街頭活動の日と位置づけ、各地区の自治会で取り組んでいただいております。このような市民の皆さまのご協力をいただきながら、これからでもできるだけ犯罪を減らしていきたいと思っています。ついで隊というのは、散歩したり、買い物に行く際に黄色い腕章などを付けていただき、それを見た不審者に、誰かが見ているぞと思わせるものです。ついで隊は、なにかのついでにまちの安全に取り組んでいこうという証ですので、これを付けた方が一人でも増えれば、不審者に、春日市は犯罪に厳しいまちと思わせ、尻込みさせる狙いがあります。腕章等は、公民館にもありますので、皆さま方にもついで隊に、ぜひ参加していただきたいと思います。ただ、不審者やたむろしている若者には、声を絶対にかけないで下さい。声をかけるのは、指導員や補導の

専門の方がいらっしゃいますので、警察に通報していただくのは結構ですが、そここのところはご協力をいただければありがたいと思います。また、筑紫地区四市一町の首長が連携をとりまして、北部の春日市、大野城市、那珂川町を管轄するような新しい警察署をつくってほしいと要望を出しています。春日市よりも規模が小さい小郡や上嘉穂にも警察署がありますが、過疎地の警察署をなくすのがいいかといわれればそうではなく、人口の少ないところでも様々な犯罪があります。例えば、空き家が増えてくるといろんな犯罪の温床となります。統廃合の目途がたってきたようですので、次はこの筑紫野警察署ではないかと思います。ですから、近いうちに、皆様に朗報をお聞かせすることができるのではなかろうかと思います。わたくしは、筑紫地区の市長町長に呼びかけまして、25万人を抱える春日市、大野城市、那珂川町の真ん中である春日市に、大野城市長、那珂川町長に了解を得て、警察署の新設を警察に要望しています。もう少し、お時間を頂きたいと思います。

続いて、1班の環境の問題ですが、いくつも、分別などの問題を出していただきました。行政のしていることを理解しづらい面もあると思いますが、私どもの頭を悩ませたのが、プラスチックの分別と再処理ができる設備についてですが、数十億という莫大な金額がかかります。また、サーマルリサイクルという、プラスチックを補助燃料として利用するものがありますが、プラスチックは、実際のリサイクルの効率が悪く4分の1以下ですので、残りは処分しています。また、松ヶ丘にあります福岡市と春日市と那珂川町でつくった南部清掃工場で、今度は大野城市と太宰府市が入り、共同で処理していこうということになっています。福岡市、春日市、大野城市、太宰府市がここでプラスチックの処理をしています。那珂川町だけが、処理施設をつくったようですが、リサイクルが4分の1しかできないといったことや、厳しい財政状況もあり、春日市ではこのような施設をつくることはできませんので、このような処理をさせていただいております。

諸岡川の親水公園のお話もありました。諸岡川沿いに歩道をつくりまして、要所に親水公園をつくろうという計画がありましたが、わたくしが市長に就任した平成11年度と比較して、地方交付税が半分以上に減額された上、金額も多額ですので、予算が組めません。これだけではなく、やりたい事業があっても、財政面でできないという苦しい胸の内があります。それから、現在、古紙回収をしていただいておりますが、特に集合住宅では、新聞などの再利用可能な資源ごみを可燃ごみで出されています。これをもう少し資源ごみとして出されるよう徹底していただくことで、焼却費用が抑えられますので、どうすればいいのか、これについて、厚かましいお願いではありますが、市民の皆さまになにか良い知恵を出していただけたらと思っております。

最後に、3班の都市整備についてでした。コミュニティバスの件や、校区と自治会についての話でした。春日市では、人口急増期に、学校が足りなくなったので建てたのですが、どうしても理想の場所に建てられず、学校どうしが近くになるといったことが多くあります。ですから、自治会と校区のエリアが必ずしも重なっていないところが多数あります。春日地区は、3つの校区にまたがっていたと思います。育成会などが分断されてしまい、活動が低調になっています。それで、少し人口が落ち着いてきたのもあり、自治会と校区が重なるように校区の見直しをするようにしました。ですが、なかなか保護者の方の理解が得られず、須玖小の校区再編の際は、なんで今まで通っていた学校を来年から変えない

といけないのか、ということで猛反発があったそうです。そこで、私どもが考えた中に、学校の生徒が横ばいになっていますので、少人数学級を導入してはどうかということがありまして、今までは、小中学校は 40 人 1 クラスで、1 人でも超えれば 2 クラスにしていますが、これを 30 人学級にできないかと教育委員会で検討してもらいました。なんとかできそうだということでしたので、次に、どの学年を対象とするかということで、小学校 1 年生を対象にするところが多い中、春日市では、6 年生を対象にしました。といいますのは、今教育で問題となっているのが、中学校に上がる直前の中一ギャップといいまして、小学校から中学校に上がるときに学習の内容が変わってくるものですから、学力が著しく低下することがあるそうです。ですから、6 年生で少人数学級を取り入れて、ゆとりのある教育を実施していけば、ギャップが少なくなっていくのではないかとということで、保護者や先生の方々にも、喜んでいただいておりますが、このためにも、校区の再編は避けては通れないものとなっています。ですから、来年からというわけにはいきませんので、すでに一年生で、6 年間学校を変わりたくないという方は卒業まで在籍していただいて結構ですが、新一年生からは新しい学校に通っていただきます。そのかわり、友達が新しい校区の学校に行ったから、自分も行きたいといわれる方については、年度の変わり目に学校を変えることもできるという弾力的な運用もいたしております。

それから、コミュニティバスのお話もありました。もっと多くの市民の皆さまにご利用していただきたいと思います。大野城市の件も出ましたが、大野城市のバス路線は、西鉄バスが収益上の理由で撤退したところにあり、通勤通学に多く利用されているようですが、春日市はそうではなくて、目的は、公共要地を巡っていただくというものです。巡回バスでして、5 つの路線を 5 台のバスがふれあい文化センターにおいて朝 9 時に第 1 便がスタートします。だいたい 35 分前後で一巡し、バスセンターに 5 台揃った後、また発車する、という仕組みになっています。また、かねてから春日市を一周する路線を設けてはどうかと言われますが、時間の計画がものすごくたてづらいことや、どれだけの方にご利用していただけるのかということがあります。目的地によっては、かえって時間がかかる場合があります。あくまで巡回というのがコミュニティバスの基本理念でございますので、そのへんはいろいろご意見をいただきながら、これから充分検討させていただきたいと思えます。それから、乗り継ぎは無料です。例えば、大和町からふれあい文化センターまで行き、そこから春日原に行きたいときは、乗り継ぎカードをもらえば、乗り継ぎ料はいりません。このような利便性を兼ねたバスですが、地域の道路事情や地権者のご理解が得られないこともあり、須玖北などはバス路線が引けず、苦慮しています。なんとか、もっと利用しやすいバスを目指していきますので、宜しくお願いします。

今日は大変ありがとうございました。

(7) 閉会

第28回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成21年1月28日(水)
- 2 時 間 午後7:00～午後9:10
- 3 会 場 春日市役所 大会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 19名
春日市長、総務部長、行政管理課長、行政管理課長補佐、
事務局(行政管理担当)、学校教育課長、教務課長補佐、社会教育課長補佐、
地域づくり課長補佐、文化財課文化財担当係長
〔欠席〕伊藤 智幸、川田 絵美、森 俊子、山田 恵美、横山 信美、渡辺 昌代、
上野 元公、小田 晴美、鏡山 雪子、日田 美智子

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 歴史文化財、民俗文化財について(講師:平田文化財課係長)

今から春日市の歴史文化財と民俗文化財についてみていきたいと思います。

1 旧石器・縄文時代

まず、春日市に人が住むようになったのは、今から一万年以上前の世界がまだ氷河期であった時代のことです。この時代は旧石器時代と呼ばれており、市内から出土した石器をみる限り、おそらく、春日市では、二万年ほど前から、狩猟を中心とした生活が営まれていたものと思われます。

そして、氷河期が終わり温暖な気候になると、私たちの遠い祖先は急激な環境の変化にうまく適応した縄文文化を築きあげます。土器がつくられたり、弓矢が使われるようになったり、また、各地に貝塚が形成されるようになったのはこの時代のことです。縄文時代はおよそ1万年間という長い間続きますが、春日市内には、この時代の遺跡はあまり多くはありません。

旧石器時代や縄文時代には、春日市へ人々が移り住んできたことは明らかですが、この時代に関しましては、主に狩猟のための一時的なキャンプ地としてこの地が利用されていたのではないかと思います。

2 奴国の時代

そして、時が過ぎ、今からおよそ2400年前に大陸から水稲耕作が伝わってきますと、縄文時代が終わり、弥生時代に入ります。稲作が最初に伝わったところは、大陸に近い玄界灘の沿岸地域であり、福岡市の板付遺跡などはその代表的な遺跡です。

弥生時代の最初の頃は、人々は小さな村を単位として生活していたようですが、やがて村は次第に統合され、小さなクニが各地に形成されていきます。『漢書』地理志という中国の書物の中に当時の日本のことが書かれており、それによると「楽浪海中に倭人あり。分かれて百余国と為る。」とあります。これは、紀元前1世紀頃の北部九州の状況であろうと考えられます。

この『漢書』地理志の記述が表していると思われる紀元前1世紀頃には、既に福岡平野にクニ、つまり奴国が形成されて、春日市がその中心地になっていたと推定されます。

春日市の弥生時代の遺跡を見ますと、大きく4つのグループに分かれているようです。その

中で最も規模が大きく中心となっているのが、岡本から小倉を中心として分布している須玖遺跡群です。具体的には、徳洲会病院の所からふれあい文化センターあたりまでの南北約2キロ、東西約1キロに及ぶ、わが国最大規模の弥生時代の集落でありまして、それは規模ばかりではなく、出土品の内容が非常に素晴らしいことから、当時の福岡平野の中心地、つまり、奴国の中心地であったことが推定されます。

ところで、奴国とは、中国の歴史書である『後漢書』に登場する倭、つまり日本ですが、当時の日本の有力な国のことで、奴国王は紀元57年に後漢に遣いを送り、その際、金印を授かっています。この時に授かった金印が江戸時代に志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印とされています。

従いまして、1世紀の半ば頃、わが国で最も有力であったクニが奴国であり、その中心が春日市の須玖遺跡群であったと考えられますので、当時は春日市がわが国の中心地であったことになります。

須玖遺跡群が奴国の中心地、つまり、奴国の王都であったことを裏付けるものとして、まず、須玖岡本遺跡から発見された甕棺墓があります。この甕棺墓からは、中国の前漢時代に作られた鏡が30面前後、銅矛や銅剣などの青銅武器が10本以上、この他、ガラス製の璧、ガラスの勾玉や管玉など多数の副葬品が出土しています。しかも、この甕棺の上には、長さが3.3メートルで重さが4トンもある大きな石が置かれ、また、集団墓地から離れて単独で造られていたことから、奴国の王墓とされているわけです。

この時代にこのような多数の副葬品を持った墓は、これ以外には前原市の三雲遺跡から発見された甕棺墓以外には例がありません。従って、須玖岡本の甕棺墓は奴国の王墓で、三雲遺跡の甕棺墓は伊都国の王墓と考えられているわけです。

須玖岡本遺跡の王墓は、明治32年に偶然発見され、その内容は正確に分かっていません。今、発見されていれば、世紀の大発見となる非常に重要なものであることは間違いありません。

そして、須玖岡本遺跡王墓の副葬品の中で一番の注目は、中国製の鏡の中に直径が20センチ以上もある大型鏡が3面も含まれていたことです。このような立派な鏡は、中国でも出土した例が非常に少なく、王侯クラスの墓からしか出土しないような貴重品です。

このことから、須玖岡本に埋葬された王は、大陸と直接交渉を行っていたものと思われます。ちなみに、この王墓の年代は、副葬されていた中国鏡から、紀元前1世紀の終わりごろと推定されており、金印を授かった王より数世代前の奴国王の墓とみられます。

須玖遺跡群には、王墓がある須玖岡本遺跡のほかにも全国的に有名な遺跡がたくさんあります。例えば、全国で初めて青銅器工房跡が発見された須玖永田遺跡、弥生時代当時、最大規模の青銅器工房があった須玖岡本遺跡坂本地区や全国で唯一弥生時代のガラス工房跡の存在が裏付けられている須玖五反田遺跡などがあります。このような重要な遺跡が密集しているところは全国でも例がありません。この春日市だけです。

このように須玖遺跡群は、遺跡の内容ばかりでなく、出土遺物の質や量においても全国の弥生遺跡の中でも突出した存在となっており、まさしく奴国の王都に相応しいものと考えます。

須玖遺跡群は、全国の弥生時代遺跡の中で最も素晴らしい遺跡であり、春日市が全国に誇るべき遺産だと思います。

3 奴国以後の状況

弥生時代が終わって次の古墳時代になりますと、大和地方を中心とした政権が成立し、全国に前方後円墳が造られるようになります。およそ3世紀後半頃のことです。この時代に入りますと弥生時代に繁栄した須玖遺跡群の集落が急激に縮小します。

市内には、有名な日拝塚古墳や下白水大塚古墳などの前方後円墳がありますが、古墳時代になると福岡平野の中心は、那珂川流域の福岡市や那珂川町に移っていったようです。

また、春日市には、古墳時代の後続く歴史時代の重要な遺跡として、国の特別史跡に指定されている大土居や天神山の水城跡があります。

しかし、これ以降の時代は、春日市の場合、弥生時代のような華々しい時期はなかったようです。静かな農村地帯として長い間生活様式が代々受け継がれ、また、新たな文化も取り入れながら途絶えることなく現在の春日市の基礎が築かれました。

4 市内に残る民俗文化財

現在、市内に残る民俗文化財として最も有名なのが春日地区で毎年1月14日に行われる「春日の婿押し」です。これは、地域に伝わる特色のある年中行事ということから平成7年に国指定の無形民俗文化財に指定されています。

また、小倉地区には嫁の尻たたきや盆綱引きなどの行事が残っています。

このような伝統行事は、地区の結束を促すという面で、重要な社会的な役割を持っていたことは確かです。戦後は全国各地でこのような伝統行事が急速に消滅してきましたが、現在にいたってその重要性が見直され、復活している事例もたくさんあるようです。

そして、岡本の奴国の丘歴史資料館には、主に大正時代から昭和初期にかけて地元で使用されていた農具や生活用具などを保管し、その一部を展示しています。展示資料は昭和初期頃に使われていたものが主で、この民俗資料の一つひとつに長い間培われてきた先人の優れた技術と知恵をみることができます。

5 文化財の活用

以上、述べてきましたように、春日市には奴国時代の遺跡をはじめとして、全国に誇ることができる素晴らしい文化財が残されています。これらの大切な文化財は、春日市独自のまちづくりのために活用されるべきものであり、そのためには多くの市民の方々にその重要性を理解していただく必要があります。

また、各地域に現在残っている伝統行事を受け継ぎながら、人と人との交流を深めていくことも、現代のような核家族化が進行した状況の中では特に必要なことであり、これが、文化財の保存や活用にも繋がるものと思います。

(4) グループ懇話

もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために

1月のテーマ『コミュニティの活性化について』

1班 教育の充実

2班 人間関係の構築

3班 地域社会の構築

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

1班 班員 伊藤 信輔（発表）、大石 昭子、塚本 幸弘、黒川 裕子、
進 まゆみ、中村 文香

教育の充実（担当職員：工藤学校教育課長、柴田教務課長補佐、
平田文化財課係長）

教育の充実ということについて、話し合いました。事前にとり上げられた項目が十数個ありまして、具体的にどれについて話そうかということになりましたが、春日市は全国学力テストで全国的にどのレベルであるか、という話題を皮切りに、どんどん発展していきました。ちなみに、春日市の小中学校はすべて全国平均以上ということで、教育関係がまだまだ良い方向に向かう余地があるということです。その中で、ある会員の方が、学校へ教育実習というかたちで大学生が必要とされる場所はないか、もっともっと子どもたちと触れ合いたかったと話されていました。その際に、学校教育課長より、春日市ではコミュニティスクールというシステムをとっており、実際に大学教授を通じて学校に来ているということを初めてお聞きしました。今後、このようなことを市報だけでなく、もっと具体的に広く市民にお知らせする必要があると思います。

そして、教育は全ての原点であり、教育は大事なことで、しっかりやっていただくためにも、教える側のレベルアップ、能力アップを心掛けてもらいたい、そしてゆくゆくは子どもに対する教育だけでなく、親への指導等が必要な場合に学校や教育委員会がその指導もしていけるようにしていただきたい、という意見がありました。これに対しては、学校教育課長によれば、春日市ではPTAへの働きもあり、そのような方向に向かっており、教育システムとしては全国から注目を浴びているので、今後も市民の方からの意見をお聞きしながら、さらに良いものとしていきたい、とのことでした。

なかなかまとまった結論はでませんでした。市の職員の方に、「これはしていかなければ」と思われることが一つでも二つでもあれば、速やかに実行していただければと思います。

2班 班員 井口 謙氏（発表）、上野 直麻子、柿本 人司、齋藤 泰英、
多門 妙子、藤瀬 淳也

人間関係の構築（担当職員：中野社会教育課長補佐）

人間関係の構築ということについて話し合いましたが、その中でも、家庭内の人間関係、親子関係についての話となりました。態度や言葉がおかしい子どもたちは一体誰がつくったのかということで、皆それぞれ責任を持っているのだと思います。子どもを育てるにあ

たつての第1義的な責任は親が持たなければならないという法律があり、学校に文句をいうよりも、まずは親がきちんと育て、基礎的なしつけを身に付けさせなければいけないということでした。

また、いろいろな話もありました。今も昔もそうだったのでしょうが、親と子の間に話題や共通点がないということ、昔の子どもには総理大臣になりたいといった夢があったのに、今の子どもにはそのような大きな夢がないといった話がありました。

そして、話題は「食」に移っていきました。まず、食べ物にしても、作っていない。極端に言えば、包丁もまな板も無いといった家庭があり、結局、コンビニや冷凍食品を買ってきてレンジで温めればどんな食品でも食べられるというのが現実です。「この食べ物の最初の形は一体何であったのか」ということも分からなくなっていますし、話にもありましたが、魚が気持ち悪くて食べられないといった子がいるとも聞きました。その子の中では、生き物と食べ物が完全に別になっているのではないかと、とも思われますので、親がきちんと料理をつくってあげなければいけない、昔に回帰しなければならないのではないかとということです。

また、地域や他の人との関わり合いに無関心の方たちを、どう取り込んでいけばいいかという話や、母親はPTAとのつながりがあるが、父親にはなかなかないといったことへの取り組みの話がありましたが、市としてもたくさんの方の政策を打ち出しています。

また、商工会についても、春日市内にフランチャイズが増えてきたことで、横のつながりがなくなってきているという話がありました。

3班 班 員 福富 克一郎（発表）、梅崎 孝彦、大坂 康、三室 日朗、
池田 正廣、後藤 英之、田口 誠市

地域社会の構築（担当職員：喜島地域づくり課長補佐）

地域社会の構築ということで、地区世話人の報酬が各自治会に渡されるという話題が多くを占めまして、また、地区世話人に報酬が出ているということ、ほとんどの住民の方が知らないといったこともあり、自治会の運営についての話となりました。ちなみに、どの程度、自治会に渡されるのかということをお聞きしたところ、抱えている所帯の多い少ないがあるので一概には言えませんので平均ですが、1,000所帯あたり事業費として50万円、報酬が150万で年間およそ200万円となっており、決定ではないようですが、4月から9月までの分を4月に、10月から翌年3月までの分を10月にと、年2回に分けて支払われるそうです。これは、各自治会で夏祭りといった事業があり、先にお金をもらわないと事業ができないため、特例として先払いとなっているようです。

また、問題となったのが、公民館と自治会の一本化にともなって、会計の方が一番大変だということです。文化部、体育部や夏祭りの実行委員に予算を分配し、そこで事業を行い、それを会計の方が集約すればいいのではないかと思います。

そして、隣組会をもっと活発にすればいいということでした。隣組の原点は災害や防犯などにおいてお互いのコミュニケーションをとるということで、どうしても必要なものです。ですが、ある地区では回覧がまったく回らないケースもあり、段々、隣組の会員が減ってきていますので、再度、これを充実させることが必要だと思います。

また、先ほどのお金の問題ですが、各地区によって高低差がありますので、行政がモデルケースを作ってほしいという意見がありました。

(6) 市長所感

今日は、熱心に講話を聞いていただき、また、3 班に分かれてのグループ懇話をしていただきまして、本当にありがとうございました。

まず、教育の充実についてですが、春日市は、教育の面でも全国から注目を浴びるようなことを数多くしております。小学校 3 年生を対象に社会性を身に付けたり、子どもにチャレンジしてもらいたいことを家庭に働きかけています。このような春日市の取り組みは文部科学省も注目しております。とりわけ、福岡県の女性の部長で文部科学省のある審議委員をされている方が文部科学省とのパイプ役となっており、本市で取り組んでいる子育てアップチャレンジプランがさらに充実してきますと、モデルケースとして評価されるのではないかと期待しております。会員の方から全国学力テストのご意見もありましたが、全ての学校が平均以上でした。また、コミュニティ・スクールのお話もあり、学校と家庭と地域のつながりを深め、常に開かれた学校づくりを進めております。どんな社会でも閉ざされてしまいますと、社会の常識から外れてしまいますので、新鮮な風を学校に送り込み、学校の子どもたちの元気を地域に分けていけたらと思います。

また、人間関係の構築では、モンスターペアレンツの話もありました。人間関係の基本は、親子であり、家庭であり、地域社会ではないかと思えます。そして、家庭や親の果たす役割といったものをこれから見直していく必要があります。しかし、これを誰が見直すのが難しいところです。行政がやって、これを押し付けに感じられたりすると、行政に対する批判はものすごいものがありますので、職員も頭を痛めております。こういったことも、先ほどの教育の充実や地域社会と複合的に考えながら、地域の人間関係をもっと良くしていくことを基本として進めていくと功を奏しやすいのではないかと考えております。また、食の問題も重要でして、中国から基準を超えた農薬が検出されるといったこともあり、国内のものであっても材料の原料が全く分からず、全て調理されたものばかりで、あとは火を通すだけといった状況ですので、こういったことが、食への関心の低さにつながっているのではないかと感じております。これも誰かが警鐘を鳴らさないといけないのではないかと思います。今、春日市として考えられること、行政として呼びかけていることに食育があり、食育を研究されている方もいらっしゃいますが、このことは、学校教育課、保育園、市民課などいくつもの課にまたがっていきますので、これらをいかに束ねていくのが難しいところではあります。時間をかけてでも食育のプロジェクトチームをつくる必要があるのではないかと思います。今日のご意見を参考にさせていただきたいと考えております。

また、地域社会の構築ということで、地区世話人のお話をさせていただきました。現在、各自治会に市から毎年約 400 万円の補助金を出しており、これまでは、育成会や老人会に個々に補助を出していたことで関係者以外にみえてこないといったことがありましたので、これを一本化し、地域の方に分かりやすくしていこうという狙いがあります。それと同時に、地区世話人の方々の報酬を人にではなく、地域にお渡しすることで、公民館長や他の

役員の方々の手当てを増やしていくことも一つの方策ですので、モデル地区の設置も進めていきたいと思っています。また、隣組の活性化についても、独居高齢者の方が体力的な面から自治会から離れていくということがありますので、今回の見直しを契機に、皆さま方に話し合っていて出来る方にやっていただき、その代わりに手当てを増やしていくことも一つの手段であると思いますし、市からの補助を活用していただき、それぞれ地域の特性をもって特色ある運営をしていただくことで地域社会の原点が芽生えることを期待しています。これは決して行政主導ではなく、地区世話人の方々と２年間以上の時間をかけながら、現在の問題点を話し合い、一つの方向として、今年の４月から実施することになったものです。これはまさに、市民と行政の成果品ですので、これを大切に有意義に活用していただきたいと思っています。これからも色々なご意見がありましたら、お聞かせ願いたいと思います。

(7) 閉会

第 29 回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成 21 年 3 月 25 日（水）
- 2 時 間 午後 7：00～午後 9：10
- 3 会 場 春日市役所 404、405、406 会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 19 名
春日市長、行政管理課長、行政管理課長補佐、
事務局（行政管理担当）、財政課長、行政管理課職員
〔欠席〕伊藤 智幸、川田 絵美、横山 信美、渡辺 昌代、上野 元公、
齋藤 泰英、池田 正廣、後藤 英之、多門 妙子、藤瀬 淳也

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) 春日市の財政の基本的な考え方と実状について（講師：金堂財政課長）

春日市の財政を、家計簿に置き換えてできるかぎりわかりやすくお話しできればと思います。まず、平成 21 年度の予算ですが、1 ページに表を掲げております。一般会計が親の財布としたら、特別会計はこどもの財布と考えていただいたら、わかりやすいと思います。その中で一般会計から土地取得事業特別会計までは、黒字ですが、下水道事業会計では赤字になっています。なお、筑紫地区介護認定審査会事業特別会計についてですが、平成 20 年度と平成 21 年度は、春日市が事務局となっているため、この期間は本市の予算となっています。

次に、どのような方針で予算を作ったのかということを説明します。財政状況が厳しい中、支出を抑えるため、昨年度懸案事業 13 件と課題事業 35 件を含め、すべての事業を見直したところです。

また、事業の必要性を検証するための「見直し基準」となる、「実施意義が低下していないか」「サービス供給が過剰になっていないか」「他市との水準はバランスが取れているか」「同種のサービスがあり、輻湊していないか」「民間活動を阻害し、競合していないか」「緊急性が認められるか」という点をもとに、真に必要な投資的経費等を整理し、予算編成しました。

その結果を、「平成 21 年度に力を入れている主なもの」として掲げています。

まず、都市整備関係では、生活に密着した側溝や道路などの公共工事を行い、また学校教育関係では、地震に備えた施設の耐震化を進めるため、春日中学校の体育館の建築などに取り組むこととしています。その他については、平成 21 年度から地区世話人制度の廃止に伴って、この手当や地区への各種補助金を整理統合し、まちづくり交付金として自治会支援のための交付金を予算化しました。

ご存知のとおり、世界同時不況によって日本経済のみならず、地域経済も低迷しております。このため、平成 21 年度予算では、起債や基金の取り崩しなどを行い、20 年度から約 3 億円を増額し、本市独自の景気対策を考えながらの積極予算としました。

次に一般会計の内容を家計簿として見たいと思います。まず収入ですが、財布の中身が約 257 億円です。そのうち、自分で稼いだお金（自主財源）が 56.4%で、主なものとして給与（市税）があります。残りの 43.6%は、他人からの支援金で、主なものとして地方交付税、

国県支出金、地方譲与税があります。

次に、財布から出て行く支出、いわゆる歳出です。

性質別ですが、大きくは、常に必ず支出する費用（義務的経費）、後年度資産として残るもの（投資的経費）、その他に分かれます。

常に必ず支出する費用の義務的経費が大きくなると、自由になる経費の投資的経費に影響が出てきます。義務的経費をいかにして少なくするかが課題になっています。その他の子どもへの仕送りは、特別会計への繰り出し金です。なお、右側の円グラフは、目的別に分けたもので、各部各課ごとの予算に分けて表しています。

最後に 5、6 ページの資料について説明します。これらのページは、市報かすがの平成 20 年 10 月 15 日号に掲載されたものです。会長から財政健全化の判断比率などについて、分かりやすい資料との要望もありましたので、少し注釈を追加して資料を作成しています。

平成 19 年 6 月に「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」ができました。これは、皆さんご存知と思いますが、北海道の夕張市など地方公共団体の財政が破綻するという事態が生じ、国もそれまでの財政指標を見直し、地方公共団体の会計を全体的に連結し、もれなく公表してもらおうということになりました。「実質赤字比率」、「連結実質赤字比率」、「実質公債費比率」、「将来負担比率」などによって財政がどのような状況にあるか、これまで以上に明らかになるものです。

まず、実質赤字比率は、親の財布の一般会計と子どもの財布である特別会計のうち、土地取得特別会計を併せたもの、連結実質赤字比率は、親の財布と子どもの財布の合計で、それぞれ赤字の状況を見ていく指標です。

また、実質公債費比率は、親と子が借りたお金のうち今年支払う額がどのくらいになるのかを示すもので、親と子に加え、一部事務組合や広域連合があります。

将来負担比率では、親と子の全借金を返す力は、今の収入で大丈夫かという指標になります。

これら 4 つの指標に基づいて、本市の財政健全化が判断されます。

さて、本市の状況はどうかというと、健全であるといえますのでご安心ください。なお、今後とも行政運営の効率化を目指し、歳出の縮減に努めながら、市民サービスの充実を図っていきますので、ご理解のほどお願いします。

(4) グループ懇話

もっと住みやすく個性と活力のあふれるまちにするために

3 月のテーマ『春日市の未来像について』

1 班 春日市の財政

2 班 春日市の誇れるもの

3 班 春日市に望まれるもの

(5) 討議内容発表（発表順に記載）

1 班 班 員 三室 日朗（発表）、森 俊子、伊藤 伸輔、梅崎 孝彦、
井口 謙氏、福富 克一郎

春日市の財政（担当職員：金堂財政課長）

まず、はじめに平成 21 年度の全会計の予算総額が、歳入 439 億円、歳出 445 億円となっているが、最初から赤字で計画しているのか、という疑問からスタートしました。これは、下水道事業の歳入と歳出が一致していないことによるものですが、処理上の問題とのことで、5 月の市報でお知らせするときは、配慮して市民に分かりやすくすることでした。

色々質問がでましたが、収入の方で市税・国保税がどのくらい収入されているかという質問があり、市税は 96 から 97%徴収ができていますが、国保税では 85%くらいで少し悪い。これは、徴収率が良い後期高齢者が切り離されたことによるとのことでした。不況の中、宮若市など企業収入のあるところでは、影響を受けるが、春日市は法人が少ないので景気に左右されにくい。今年は、若干収入が減っていますが、何とかやっていけるとのことでした。ちょっとしたことで、赤字になることもあるので、借金を減らすよう今後も努力していきたいとのことでした。

2 班 班 員 中村 文香（発表）、大石 昭子、山田 恵美、黒川 裕子、
進 まゆみ、小田 晴美、田口 誠市

春日市の誇れるもの（担当職員：後藤行政管理課長）

春日市の誇れるものがたくさん挙がりました。ふるさと音頭もその一つですが、その歌詞の中でも出てくる「春日は若いまち」ですが、春日の心が若いということも誇れるところではないかと思います。次に、文化財ですが、春日市に正行寺があり、筑紫学所による雅楽の演奏が行われています。春日市は、文化財が身近に数多くある町であり、奴国の丘や水城跡、弥生遺跡も 90 箇所以上あるそうです。古代史の中で春日が一番だという意見もありました。春日市の奴国を小学生が体験するというものがあり、粉引きや勾玉づくりを行っているそうですが、このような総合学習をしていることも春日市の魅力的なところ。そのほか、一つのところに行けば、テニスができたり、バレーができたり、スポーツ施設がまとまっているところも、いいところ。また、図書館があり、そして本の巡回バスもあります。また、図書館には返却ボックスがあり、閉館後にも返したりすることができて便利です。転入したときに、「春日市べんり帳」というものが渡されますが、これはとても使えるそうです。あとは、コミュニティバス、学童保育があり、また、自然は多く、J R、西鉄など公共交通機関も充実しており、春日市は住みやすいという話になりました。

結果、誇れるところがいっぱいあり、これは大変良いことであるが、住んでいる私たちでさえ、知らないところがいっぱいあるので、知らせる工夫をしたら良いという意見もありました。まとめとしては、春日市にはいっぱい誇れるものがあるということです。

3 班 班 員 上野 直麻子（発表）、塚本 幸弘、大坂 康、柿本 人司、
井手 秀子、日田 美智子

春日市に望まれるもの（担当職員：二田水主事）

望まれるものというと、昔は良かったけれど、今はどうかということを感じます。しかし、同時に振り返ってはいけない、現実を見て、将来のために考えていかなければという

ことも感じます。これには、市民が春日の歴史を知ることが大切だと思います。余談ですが、グループ懇話の途中で市長が言われたのですが、奴国の王墓があり、明治時代に国宝級の遺物が 50 個ぐらい発見されたけれど、京都にもっていかれ、取り戻したいと思っているそうです。これらは、春日市の誇りだと思います。

また、春日市がもっと良くなるには、春日市が日本一に誇れるものを打ち出していくことだと思います。その一つに、春日市は、人口に対して職員が一番少ないというのがあります。では、福祉の面ではどうか。昔は良かったけれど現在はどうかと考えると、高齢者にとって住みにくいというアンケート結果もあるそうで、近所の方に聞くと高齢者の方の住みにくさが出ているという声も聞こえてきます。

春日市には、「まちづくり塾」というものがあり、(6 月から 2 月までの間)に月 1 回開催されているそうです。このようなことは、市報で色々お知らせがされているのですが、私たちは見逃しています。これは、私たちにも責任があるのでしょうか。この塾は、まちづくり支援センターぶどうの庭で、(6 月から 2 月までの間)に月 1 回行われ、高校生から老人まで幅広い市民がいるから面白いという話がありました。春日市が好きだから、棚からぼた餅ではなく、1 歩進んで自分から勉強していく。このようなことが大切かと思い、今日こうして皆さんと話し合いに参加しています。

ところで、私は、文化に携わり、4 市 1 町に行くことがあって、それぞれ比較することがあります。春日市は、もちろん多くの良い面がありますが、見劣りするところもあります。先日、大野城市役所に行くと玄関に立派な花がありましたが、春日市では花台はあっても、花が入っていませんでした。私は、自分で 1 回くらいは生けることはできますが、継続して生けることはできません。そこに募金箱でもおいて、それで賄っていきたいという気持ちを持ちました。文化が廃れば、世の中も廃れます。小さな子どもたちも文化というものに触れてほしいと思います。文化は昨日、今日でできるものではなく、長い間培っていくものです。そのような、文化が培われていく春日を望んでおります。

(6) 市長所感

今日も、あっという間に予定の時間になりました。今日は財政課長が熱を入れて説明をしました。しかし、おそろくわかりづらかったのではないのでしょうか。財政は、数字が複雑に絡み合って、全部を理解することは難しかったと思いますが、それでも大雑把にはご理解いただけたのではと思います。私たちの子孫に借金を残さないというのが大切なことですが、借金を返すばかりでは、文化が廃れたり、ぎすぎすした社会になったりします。このため、借金は返しながら、財政的に厳しい時代を若干遅らせてでも、一方では別のことにお金を使うようにしていって、との考えによって平成 21 年度は財政運営していきたいと思っております。先ほど、第 1 班のグループ懇話の中で新たな財源を見つけては、との御意見をいただきました。太宰府のように観光税を駐車場料として取れるといいのですが、春日市の財政は主に市税で賄われており、なかなか新たにお金を落としてもらうというものや、大きな法人もありません。それだけ景気の変動にあまり左右されず、借金を返していけたという利点もあります。公共料金を上げる、下水道料金を上げる、国民健康保険税を上げるなども可能なのですが、これをやりますと、これに見合うサービスをしなさ

いということになり、思わしくない結果となることも考えられます。このように財政というのは大変難しく、頭の痛い思いをしていることもご理解ください。

次に第2班では、春日市の誇れるものということでした。誇れるものがたくさんあるということで意見を述べてもらいました。これは私も実感しております。平田台の正行寺には、雅楽御堂というのがあります。雅楽とは、宮内庁で演奏されていますが、よく神社や結婚式などで流れる音楽です。4、5年まえに福岡県で国民文化祭が開催され、このとき、本市では雅楽を担当したのですが、宮内庁からも指導をいただき、また春日北中学校の生徒も加わり、ふれあい文化センターのスプリングホールで大変立派に演奏されました。こういったものも、今後、春日市の誇れるものにしたらどうかと感じました。そのほか、学童保育なども春日市の誇れるもので、いまだに全国から視察が続いております。

第3班から、春日市に望まれるものということで、春日市の良さを市民の皆さんへの周知することが十分ではないとの指摘をいただきました。これも反省しており、文化財課や教育委員会とも協議していきたいと思います。話は変わりますが、須玖のお菓子屋で、「うさぎや」というのがあり、ここは若い社長さんが、須玖小学校の生徒と話し合いをして、奴国にちなんだお菓子を作り、これが大きく新聞に載ったことがあります。「奴国の友」という名前だったと思います。話がありました、NPO春日まちづくり支援センターぶどうの庭ですが、「春日まちづくり塾」というのがあり、自分たちで勉強会をしています。また、このぶどうの庭では、九州場所の時に芝田山部屋が借りられて土俵をつくり、ここで朝稽古していますので、ぜひ見に行ってください。これもまた春日市の特性になるのかと思います。

先ほど、グループ懇話の時に質問された筑紫野警察署の分割ことですが、先日、新聞に関連記事が載っていました。筑紫地区では42万の人口を抱えていますが、5つの市や町で警察署が1つしかないというのは、全国的に見ても稀な状況です。筑紫野警察署は、筑紫野市の一番南の上古賀というところがあり、春日市と大野城市と那珂川町をエリアとした警察署の分署をつくってほしいと要望しておりましたところ、ようやく動き出し、21年度予算には間に合わなかったのですが、22年度には間違いなく調査費が、またもっと進めば用地費などの動きが出てくると考えられます。その動きが分かればお知らせしたいと思います。新しい警察署が春日市にできれば、もっと治安の面で大きな力を発揮してくれるのではないかと期待しています。

今日も闊達な御意見をいただき、本当にありがとうございました。

(7) 閉会

第30回かすが市民懇話会会議録

- 1 開催日 平成21年5月22日（金）
- 2 時 間 午後7:00～午後9:15
- 3 会 場 春日市役所 404、405、406 会議室
- 4 出席者 かすが市民懇話会会員 18名
春日市長、総務部長、行政管理課長、行政管理課長補佐、
事務局（行政管理担当）
〔欠席〕伊藤 智幸、川田 絵美、森 俊子、横山 信美、上野 元公、
齋藤 泰英、井口 謙氏、小田 晴美、田口 誠市、多門 妙子、
藤瀬 淳也

5 会議の内容

- (1) 会長あいさつ
- (2) 市長あいさつ
- (3) グループ懇話

5月のテーマ『もっともっと住みやすい春日市のために～**良いところ**・**不十分なところ**～』

- (4) 討議内容発表（発表順に記載）

1班 班 員 柿本 人司（発表）、大石 昭子、黒川 裕子、三室 日朗、
井手 秀子、福富 克一郎

今日は討議というより、事前課題であった、春日市の良いところ、不十分なところをまとめたものをKJ法でポストイットに書き出して、類似のものを貼り出しました。『環境問題』『行政』『教育・子育て』『歴史と文化』『高齢者問題』『交通・防犯』『コミュニティバスやよい』『エコ』に分類しました。エコというのは、『環境問題』よりディティール（細詳）な表現でしたので、別分類にしました。

『環境問題』から言いますと、良いところでは、「人口密度が高い都市だが住環境がよい。池や緑が多い。」「大河川もなく平野部にある。」「大きな工場がないため、公害問題が少ない。」「上下水道が整備されている」、「比較的に若い人のまちである」という意見、不十分なところでは、「それと裏腹に昼間人口と夜間人口、いわゆるベットタウンの良いところ、良くないところの考察が必要ではないか。」「緑地環境」、「(23) 個人個人の意識付けが大事なのではないか。」「(24) 環境のためには、公園、緑地が必要。」の意見が出ました。

『行政問題』については、良いところでは、「行政の取り組みがよい。」「市の財政は法人が少ないのである意味健全。」「景気の動向に左右されにくい。」「地域が狭いため、行政の目が届きやすい。」の意見が出ました。

その中で、地域社会の良いところとして、「自治会組織の充足」、「地域公民館の充実」という意見、不十分なところとして、「地域社会と地区世話人」、「地区公園の利用」という意見があります。

税金等に関しては、「無駄な支出」、「財政」、「税UP」、「固定資産税」、「春日市で働く場所作り」も不十分なところであり、「コスト削減の目標管理」といった意見もあります。

『教育・子育て』としては、良い点として「教育子育て支援に尽力している学童保育も

全国から見学者が多い。」、「児童生徒の通学距離が短い。」、「春日市が誇りに思えるような日本一、世界で一番というものを企画して考案してPRに努める。」、「市民のまちづくりへの関心、意識が高い、ボランティアの意識良好。」、「ボランティア活動をしている学生や市民に対する評価。」、「子どもが総理大臣や博士、スポーツ選手になるような大きな夢を持って欲しい。」の意見が出ました。それから不十分なところでは、「校区の再編」、「1地区に1校区ごとの会の統一を図る。」、「都市整備（42）一つの学校に地域全体から通えるような方針で進められないか。」、「父親問題（68）基本的な教育やしつけの場は学校や家庭の外にもある。そこに、PTA等に参加する機会の少ない父親の活躍の場があるのではないか。」、「教育の充実（60）小学6年生以外も30人以下学級にしてはどうか。一番の原点は家庭での教育だが、学校は家庭も指導するぐらいの教育があってもいいのではないか。地域、学校、家庭が一体となる雰囲気づくりが必要ではないか。」、「（20）親と子の活動の仲間作り。」、「（63）食べ物、最初は一体何であったのか分からない子どもがいる。食べ物と生き物とが完全に別になっているのではないか。」という意見がありました。

『高齢者問題』では、「（03）後期高齢者医療制度について、自分の置かれた環境を知ろうとしなかったということがあったのではないか。」、「（05）後期高齢者医療制度に関し、例えば、いらない薬を多くもらってしまうことで、医療負担の金額が余計にかかっているのではないか。」、「高齢者の独居の対応」、「障害者への対応」が不十分な点としての意見でした。

『コミュニティバスやよい』については、良い意見とそうでない両方の意見が、かなりの量ありました。

『歴史と文化』という面では、「（83）平田台地区に正行寺があり、雅楽の演奏などが行われているが、知らない人も多い。」、「（84）奴国の丘歴史資料館を知らない人も多く、道々の看板が見つけにくい。目立たない紫色の看板になっている。」、「（85）誇りに思えることはたくさんあるが、自分たちが知らないことが多い。」、「（87）駅などの案内板を充実させてはどうか。お宝百選などいろいろな場所を紹介してはどうか。」、「（88）市民がいろいろなことを知ること、誇りに思えることも増えてくるのではないか。」、「（93）奴国の丘や貴重な遺跡があるにもかかわらず、PRが足りず、知らない人も多い。」、「（94）奴国の丘や遺跡について、歴史や文化と結び付けて、子どもたち、親や大人に案内するのがよいのではないか。」、「（95）子どもたちに春日市のことをよく知ってもらえるような授業等の機会を設けるのがよいのではないか。」が不十分なところです。

エコ問題について、「エコの（設備が）充実している方の実績に応じて、ご褒美あげる。」、「（28）資料が入っている封筒はいらない。」、「（29）会議などでペーパーレス化を図る。」、「資源ごみの回収に一考を要す。」という意見が出ました。

また、『交通防犯問題』も不十分なところです。

大変、バラエティに富んだ意見で、まとめるのは困難でした。

2班 班員 進 まゆみ（発表）、上野 直麻子、塚本 幸弘、渡辺 昌代、
伊藤 信輔、中村 文香

表の黄色い付箋は、事前課題から出た春日市の誇れるところです。『教育関連』、『歴史・文化』、『市民と行政』、『公共施設・市のイベント』、『市政運営』の5項目に分けて発表します。

『教育関連』では、小学校6年生ですが、30人以下の少人数学級が全国的にも注目を浴び、教育行政の最先端をいっており、良いところに上げました。

『歴史・文化』では、歴史文化を大切にしていること、文化財が豊富であることが、自慢ではないかとのことでした。

『市民と行政』では、さすが市民懇話会を含めさまざまな懇話会があること、市長と気軽に話しができ、積極的にいろんな話に耳を傾けていることがすごく評判が良いという意見がありました。

『公共施設・市のイベント』では、公共施設が多くて美しいこと、福祉施設の設備が良いという意見がありました。

『市政の運営』では、赤字財政への取り組み、防犯体制の強化を積極的に働きかけているという意見がありました。

次に、青い付箋は、春日市の不十分なところとして、事前課題で配付された番号の中からピックアップし、数の多いところから検討するつもりでしたが、時間の方がなく、整理するので精一杯でした。

「第26～29回の意見のまとめ」の項目から福祉支援、住環境整備についてたくさんの意見が出ましたが、数的には、コミュニティの活性化、春日市の未来像について、意見が集中しました。意見の多い方から、「(61) 資料館来場者が少ないので、目標来場者数を設定してはどうか。来場者に何か1つでも印象に残るものをつくるべきではないか。資料館で特産品の販売を行ってはどうか。」、「(93) 奴国の丘や貴重な遺跡があるにもかかわらず、PRが足りず、知らない人も多い。」、「(94) 奴国の丘や遺跡について、歴史や文化と結び付けて、子どもたち、親や大人に案内するのがよいのではないか。」、「(96) 市民が春日市を誇りに思えるような、また、日本や世界で一番という企画を立案し、市外へ大きくPRしてはどうか。」が多かったです。

次に多かったのが、「(58) 春日市に誇りを持てるように、資料館を利用して地元をよく知ってもらってはどうか。」、「(59) 志高い人がいることを自治会長会で紹介して活用してはどうか。広範囲な住民を対象にした広報を充実するとともに、もう少しPRしてはどうか。地域の人を先生にして学校で講話してもらってはどうか。」、「(60) 小学6年生以外も30人以下学級にしてはどうか。一番の原点は家庭での教育だが、学校は家庭も指導するぐらいの教育があってもいいのではないか。地域、学校、家庭が一体となる雰囲気づくりが必要ではないか。」、「(63) 食べ物、最初は一体何であったのか分からない子どもがいる。食べ物と生き物が完全に別になっているのではないか。」、「(64) 子育てが終わった後の親同士に面識がないことは問題ではないか。」、「(82) コスト削減目標を立て、実現できれば、それを職員の評価にしてはどうか。」、「(90) 文化面での予算が縮小してきている。」です。

各項目バランスよく意見が出ました。問題点は、皆さん検討し、どうしたらよいか考えてこられたと思いますが、討論に至るまでの時間がありませんでした。今回、意見が良くまとまりました。これを代々の会員、また、皆さんと検討していきながら、新しい会員の提案がでてくるのだと思います。今回は、より数の多い意見を最後に提出させていただき、より良い春日市のために、検討していただけたらと思います。

3 班 班 員 山田 恵美（発表）、梅崎 孝彦、大坂 康、池田 正廣、
後藤 英之、日田 美智子

青い付箋を良いところ、黄色い付箋を悪いところに分けて、意見を出しました。とても住みやすく良いところだと思いますが、「もう少しこうなってくれたら、もっと住みやすくなるのに。」という思いで、キーワードを出し合いながら、付箋に書いていき、「これとこれが繋がるよね。」と話しをしました。

1 番数が多かったのが 50 番台（都市整備）で、困ったところとして、道路が狭いこと、きれいに舗装はされていても歩道がなくとても危険ところが多いことです。良い点として、福岡市が近く利便性が良いことです。また、春日市はコンパクトで動きやすく、幹線道路などの大きな道路は整備されていますが、小さな道路は、危険なところが多いという話しが出ました。

2 番目に多かった意見は、犯罪「(31) 筑紫野警察署管内では、犯罪件数が平成 19 年に全国 2 位であるが、どうすれば犯罪が防げるか。」です。これについて、具体的な良い点がなく、軽犯罪が多い、災害時に地域の人たちとの結びつきが不安だという意見が多くありました。

3 番目に多かったのが「(71) ひとり暮らしの高齢者などは、災害時にどこに行けばよいか、情報が伝わってこない。」です。自治会活動は、地域差が大きく、コミュニケーションが不足しているのではないかということが出ました。良いところで、素敵な方々と出会えたという意見もありました。また、市民参加の審議会や協議会が多くあり、とても春日市が好きになったという意見もあり、逆に足りないという意見も出ました。

4 番目に多かったのが、「(60) 小学 6 年生以外も 30 人以下学級にしてはどうか。一番の原点は家庭での教育だが、学校は家庭も指導するぐらいの教育があってもいいのではないか。地域、学校、家庭が一体となる雰囲気づくりが必要ではないか。」です。小学校と地域との連携が取れていないのではという意見が出ましたが、児童館（児童センター）がたくさんあり、学童のログハウスが整備されており、公民館など良いところがたくさんあるという意見も出ました。児童館や子ども達の施設を増やしてほしいけど、場所がなく、新設は難しいので、今ある学校や公園を開放し、他の施設を利用したりして、児童センターのように子ども達が集まり、もしくは大人も集まれる場所を作ったら良いのではないかという意見が出ました。

5 番目に、町界町名が整理されているという意見が出ました。これに対し、大和町の 5 丁目に住んでいる方が、大和町の 1～4 丁目は、自衛隊と J R の反対側にありますので、大和町 1 丁目はどこですかと 5 丁目で訪ねられても、行く道を教えるのが非常に困難です。また、同じ日の出町であっても、大きな車が通る道路で繋がっておらず、古紙回収の際な

ど、説明するのが難しいので、分かりやすい町名の付け方にしてはどうかという意見が出ました。

6 番目が、看板や公園内施設の維持管理で、「(52) 春日市は看板がわかりにくい。統一的に整備してほしい。」という意見です。春日市には、文化財や歴史的な施設や体育館、文化センターなどが整備され、とても良いのですが、そこに行くまでの看板がわかりにくいのです。また、看板を見て施設に行くと、施設が整備されていないことや、駐車場がないこともあります。良い施設は、もっとアピールし、整備が不十分な施設は、整備を十分にしたい方がよいのではないかとこの意見が出ました。

7 番目に、自然公園や施設がたくさんあり、緑で街並みもとてもきれいなので、それを健康増進のために、もっともっと市民に活用してもらうように整備したり、施設の利用料を下げたり、システムをわかりやすくすれば、健康増進の施設が活用されることで寿命が5年延び、保険料などの市の財政に良いことがあるので、いろいろなことを考えて欲しいという意見が出ました。

8 番目に、「(65) フランチャイズ（大企業の加盟店）が増えてきたことで、商工会の横のつながりが希薄になってきている。」です。春日市には商店街が少なく、特産品が見当たらないので、そういうのを開発していただきたいと思います。今度、「どんぐり焼酎」というものができるという話を聞いていますが、そのような春日市の特色のあるものを作っていただきたいという意見が出ました。

最後に、「市民の市政の関心が薄い」、「(88) 市民がいろいろなことを知ることで、誇りに思えることも増えてくるのではないか。」という意見がでていました。3 番目に出ましたが、積極的に動けばいろんな情報が手に入り、いろんなことができます。市民の関心が薄いため、できないという部分は、解決しがたい部分です。しかし、少しずつ進んでいけば、もっともっと良い春日市になるのではないかと思います。

(5) 市長所感

まず、1 班の報告の取りまとめをお聞きいたしまして、いくつも詳細にご指摘いただきました。トータルとして、ピンク（不十分なところ）が多いでしょうか。これも私どもが、まだまだ取り組まないといけない課題があるということですので、これを考えていきたいと思っております。

また、2 班の発表をお聞きしまして、こちらもトータルでいきますと青（不十分なところ）が若干多いでしょうか。それぞれによく、1 つ 1 つのことに目が行き届いていると、非常に強く感じました。また、市の取り組みについても、良い評価をしていただき、改善点についてもご指摘いただきました。取りまとめまして、私どもの課題としていきたいと思っております。

3 班の発表をお聞きしまして、ここは青色（良いところ）と黄色（不十分なところ）が同じくらいでしょうか。8 つに分類してあり、それぞれに、良いところと不十分なところのご指摘いただきました。公共施設の表示が十分でないというご指摘もいただきました。改善していきたいと思います。それと、共感しましたのが、大和町が自衛隊を挟んで、住宅地が北と南に分かれており、特に大和町 5 丁目は、自治会がサンビオ地区で住居表示は

大和町になっており、これを住所だけ見る大和地区に分類されると思われがちで、非常にわかりづらい点です。また、日の出町、桜ヶ丘は、早くから開発されたところですから、道路が狭く、車道がつながっていないところがあります。私もよくその地区を歩きますが、歩くと通れるけれど、車で行くと通れないところがあり、遠回りをしなければなりません。また、日の出町と桜ヶ丘の境が十分にわからないところがございます。簡単に改善はできませんが、今日ご指摘いただきましたので、そういう問題を感じておられることを受け止めました。

特に大きな問題が、道路の狭隘というご指摘も頂きました。春日市自体がコンパクトで人口密度も高いまちですので、道路整備、拡張を行うことが難しいことがございます。将来的な見通しを立てながら、取り組んでいきたいと思えます。

それから、児童センターや学童の施設が整備されているという話がありました。福岡市は児童センターが1つか2つしかありません。他に近隣で児童センターを設置している自治体はあったでしょうか。市で4つ設置しているのは、おそらく春日市だけです。西に白水児童センターを設置し、3月にオープンしましたが、建築費だけで1億7、8、000万円かかっており、土地代まで計上しますと相当な金額になります。春日市には、空き地が少ないため、施設を設置するには、土地などの大きな費用が掛かかります。学校の敷地内に、児童センターを設置すれば、費用が抑えられたかもしれませんが、学校関係者やPTAの方の話を聞きますと、児童センターは、学校の中では意味がなく、学校は学校で子ども達が過ごせているから、学校以外のところに児童センターをつくって欲しいという意見が強かったこともあります。もちろんそれぞれの施設に意味合いがありますから、学校の中に作ってはいけないというわけでもありません。逆に、学校の中には、多目的ホールというものを小学校と中学校に作り、有効に利用されています。

ところで、近年、公民館を利用する方がどんどん増えており、老人クラブの会合を1つするにしても、公民館に入りきれない状況です。また、公民館内の集会室等大きな部屋は2階にあることが多く、エレベーターがないため、高齢者が2階へ昇降することが困難です。そこで、先ほどお話しした、学校の多目的ホールなどを、是非活用していただきたいと思っており、市長部局と教育委員会とが連携、推進し、これを地域に広めていこうと思っております。

1班から3班まで、熱心に様々な意見をだしてくださりありがとうございました。これをしっかりと取りまとめまして、今日いただいた皆様方のご意見を、我々もそれを1つ1つ解決できるようにしていきたいと思っております。

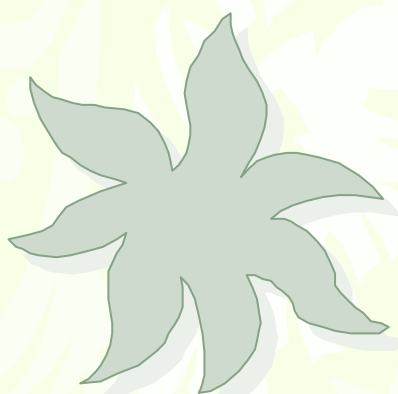
- (6) 活動報告書作成に伴うレポート提出について
- (7) 感謝状贈呈式
- (8) 写真撮影
- (9) 閉会



報告内容

第2部 詳細内容記録のエキス／ポイント (問題提起・提言等)

- ・ 第26～29回 意見のまとめ…… 37
- ・ 第30回 意見のまとめ…………… 39
- ・ 意見の集約…………… 46
(問題提起 トップ10等)



第26～29回 かすが市民懇話会 意見のまとめ

項目			内容
1 福祉支援について (26回)	高齢者支援	問題提起	[01]後期高齢者医療制度になって保険料が高くなった。
			[02]後期高齢者医療制度の内容がわからない。
			[03]後期高齢者医療制度について、自分の置かれた環境を知ろうとしなかったということがあったのではない。
			[04]後期高齢者医療制度の制度自体は国で決められているのではない。
			[05]後期高齢者医療制度に関し、例えば、いらぬ薬を多くもらってしまうことで、医療負担の金額が余計にかかっているのではない。
	障害者支援	提案	[06]ラジオ体操をすれば5年寿命が延びる。
			[07]日本は税金の取り方として、その場しのぎの対応が多い。
		問題提起	[08]いきなり社会から切り離されてしまった人達が病気になることが多い。
			[09]障害者支援の支出について、毎年上がっていく。
			[10]精神障害は見た目では分かりづらいので、周りの方や家族の方の理解がなく、家族が隠したりすることがある。
			[11]まわりから見れば健康そうなのに、障害者手帳を出さなければならないという精神的につらい立場から、落ち込んでしまうことが多い。
		提案	[12]消費税を20%くらいに上げれば、福祉支援にもお金が回せるのではない。
			[13]障害者の方を引き受ける場合に、経済的、精神的、時間的に多くの労力を使うので、1人ひとりがその支援をしていけばいいのではない。
			[14]自分たちで出来ることを一生涯社会とつながって分担していくことが、健康を保つのにいいのではない。
			[15]社会参加、働く場があったらいいのではない。
			[16]本人に外に出て行く気持ちがなければ、引きこもってしまうので、家族や地域のサポートがあればいいのではない。
			[17]病気などで突如障害をもってしまったときは、春日市福祉支援課を訪ねるのがいいのではない。
2 住環境整備について (27回)	環境	問題提起	[18]明るい子どもにするにはどうするか。
			[19]たんぼぼルームの活動内容はどのようなものか。
		提案	[20]親と子の活動の仲間作り
			[21]親と子のふれあいを大切に。
		提案	[22]現在、ビンよりもペットボトルの方が多と思うが、ビンも週2、ペットボトルは週1で回収されており、回収サイクルが逆ではないのか。
			[23]個人個人の意識付けが大事なのではないか。
			[24]環境のためには、公園、緑地が必要。
			[25]諸岡川親水緑道の地図があればよい。
			[26]毎日エコを実践しようとしても長続きしないので、一週間に1回程度でよいのではない。
			[27]企業向けのエコ教育講習会を、自治体で指導してはどうか。
			[28]資料が入っている封筒はいらない。
			[29]会議などでペーパーレス化を図る。
			[30]エコを実践すれば、例えば税金を安くするなど、実績に応じてごほうびを出してはどうか。
	防犯	問題提起	[31]筑紫野警察署管内では、犯罪件数が平成19年に全国2位であるが、どうすれば犯罪が防げるか。
			[32]防犯についての知識が足りない。
			[33]自己防衛が必要
		提案	[34]バッグは道路と反対側に持つ。
			[35]自転車のかごには財布等を無造作に置かない。
			[36]自治会のパトロールに参加して、どこが危ないのか自分たちの目で確認する。
			[37]年金支給日に金融機関を重点的に警備する。
			[38]街灯を増やす。
			[39]街頭活動をしてはどうか。
			[40]交通指導の徹底
	都市整備	問題提起	[41]安全安心まちづくり通信といったもので勉強する。
			[42]一つの学校に地域全体から通えるような方針で進められないか。
			[43]校区再編について、子どもが分かれるようなことは良くない。
			[44]子ども育成会の調整がとりづらい。
			[45]春日市の地区は、あまりにも細分化されすぎているのではない。
			[46]コミュニティバスは、待ち時間が約35分で、乗り遅れると待ち時間が50分と長い。
			[47]コミュニティバスの外側の環状線を考えてはどうか。
			[48]コミュニティバスの回数券は販売してはどうか。
			[49]コミュニティバスは、催しに間に合う時間帯を設けてはどうか。
			[50]道路整備において、田舎道に入ると、馬車道のようにカーブが多い。
			[51]カーブミラーの整備や、歩行者優先のために何をすべきか。
		提案	[52]春日市は看板がわかりにくい。統一的に整備してほしい。
			[53]校区再編について、家からの距離も考慮すべきではないか。
		提案	[54]コミュニティバスの乗り換え方式を考慮すべき。乗り換えなくても行けるように出来ないか。
			[55]バスセンターで住民登録できないか。

項目		内容
3 コミュニティの活性化について（28回）	教育の充実	問題提起
		[56]大学生を必要とするところはないか。 協力したいと思っていても情報がわかりにくい現状にある。
		[57]知力だけでなく、体験も必要ではないか。 家庭でのしつけなくして、学校でしつけられるか。 教える側の能力アップが必要ではないか。
		[58]春日市に誇りを持てるように、資料館を利用して地元をよく知ってもらってはどうか。
		提案
		[59]志高い人がいることを自治会長会で紹介して活用してはどうか。 広範囲な住民を対象にした広報を充実するとともに、もう少しPRしてはどうか。 地域の人を先生にして学校で講話してもらってはどうか。
	人間関係の構築	問題提起
		[60]小学6年生以外も30人以下学級にしてはどうか。一番の原点は家庭での教育だが、 学校は家庭も指導するぐらいの教育があってもいいのではないか。 地域、学校、家庭が一体となる雰囲気づくりが必要ではないか。
		[61]資料館来場者が少ないので、目標来場者数を設定してはどうか。 来場者に何か1つでも印象に残るものをつくるべきではないか。 資料館で特産品の販売を行ってはどうか。
		提案
		[62]今の子どもには、総理大臣になりたいといった大きな夢がない。
		[63]食べ物が、最初は一体何であったのか分からない子どもがいる。 食べ物と生き物とが完全に別になっているのではないか。
	地域社会の構築	問題提起
		[64]子育てが終わった後の親同士に面識がないことは問題ではないか。
		[65]フランチャイズが増えてきたことで、商工会での横のつながりが希薄になってきている。
		提案
		[66]親と子の会話をもっと増やすべきではないか。
		[67]ものを食べるということは命を食べているということを理解するためにも、 親がきちんと料理をつくるべきである。
		[68]基本的な教育やしつけの場は学校や家庭の外にもある。 そこに、PTA等に参加する機会の少ない父親の活躍の場があるのではないか。
		問題提起
		[69]新年度から地区世話人が廃止され、報酬等が交付金になると聞く。 お金の流れが分からない。市からの説明が必要ではないか。
4 春日市の未来像について（29回）	春日市の財政	問題提起
		[70]これまでの補助金が一歩化され、自治会へ交付される予定だが、 自治会の会計は、予算管理など仕事量が増えるのではないかと懸念される。
		[71]ひとり暮らしの高齢者などは、災害時にどこに行けばよいか、情報が伝わってこない。
		[72]危険箇所カーブミラーの設置要望する場合、どこに言えばいいのかわからない。
		提案
		[73]市は、自治会への交付金をどのように配分したらよいか、モデルを示してはどうか。
	春日市の誇れるもの	問題提起
		[74]災害等が発生したとき、地域社会の結びつきが大切になる。
		[75]自治会の会計の仕事を減らす上でも、役割を分散化して行ってはどうか。 （自治会への提案）
		提案
		[76]国保税の徴収が悪い。
		[77]無駄な支出をいかに減らすかが問題である。
	春日市に望まれるもの	問題提起
		[78]予算について、市民にもわかるよう工夫してほしい。
		[79]赤字であれば、市財産を売却すればいいのではないか。
		[80]企業誘致をすればいいのではないか。
		[81]単年度会計を複数年会計にしてはどうか。
		[82]コスト削減目標を立て、実現できれば、それを職員の評価にしてはどうか。
	春日市に望まれるもの	問題提起
		[83]平田台地区に正行寺があり、 雅楽の演奏などが行われているが、知らない人も多い。
		[84]奴国の丘歴史資料館を知らない人も多く、道々の看板が見つけにくい。 目立たない紫色の看板になっている。
		[85]誇りに思えることはたくさんあるが、自分たちが知らないことが多い。
		提案
		[86]市内に住んでいる自分達が、何が行われているかわからないので、 もっと市報などでお知らせしてはどうか。
	春日市に望まれるもの	問題提起
		[87]駅などの案内板を充実させてはどうか。 お宝百選などいろいろな場所を紹介してはどうか。
		[88]市民がいろいろなことを知ることで、 誇りに思えることも増えてくるのではないか。
		[89]歴史文化財においては、専門家が增えるより、 裾野を広く子供たちに広げることが良いのではないか。
		提案
		[90]文化面での予算が縮小してきている。
	春日市に望まれるもの	問題提起
		[91]市民の、春日市に対する愛情が薄いように思われる。
		[92]事業税を納めているのに、その恩恵が少ない。
		[93]奴国の丘や貴重な遺跡があるにもかかわらず、PRが足りず、知らない人も多い。
		提案
		[94]奴国の丘や遺跡について、歴史や文化と結び付けて、 子どもたち、親や大人に案内するのがよいのではないか。
	春日市に望まれるもの	問題提起
		[95]子どもたちに春日市のことをよく知ってもらえるような 授業等の機会を設けるのがよいのではないか。
		[96]市民が春日市を誇りに思えるような、 また、日本や世界で一番という企画を立案し、市外へ大きくPRしてはどうか。

The background of the page is a light pink gradient. It is decorated with several stylized, grey-outlined leaf or flame-like shapes. These shapes are scattered across the page, with some appearing in the upper half and others in the lower half. The shapes have a wavy, organic form, resembling stylized leaves or flames.

第30回 意見のまとめ

第30回 意見のまとめ ①

1班（模造紙での具体的な意見）

良いところ

- ・人口密度が高い都市だが住（自然）環境が良い池や緑が多い
- ・大河川もなく、平野部にあるため、自然災害が少ない。
- ・住環境がよい（大都市でもなく田舎でもない）
- ・比較的に若い人の町である
- ・大きな工場がないために公害問題が少ない
- ・上下水道がほぼ100%整備されている
- ・自治会組織の充足
- ・地域公民館の充実
- ・市長出前トーク
- ・コスト削減目標が実現できればその評価をしてほしい
- ・行政の取り組みが良い市長トーク・市民懇話会など前向き・地域の声が届きやすい
- ・景気の動向に左右されにくい街である
- ・市の財政は法人が少ないのである意味健全工場が少ないので公害の心配がない
- ・市域が小さいため、行政の目がとどきやすい
- ・教育や子育て支援に尽力している「学童保育」が全国から見学者が多い
- ・児童・生徒の通学距離が短い
- ・春日市民が誇りに思えるような日本一や世界で一番という企画を立案し、PRする
- ・市民のまちづくりへの関心意識が高いボランティアの意識良好
- ・ボランティア活動をしている学生や市民に対する評価
- ・子供に総理大臣や博士やスポーツ選手になるような夢を持ってほしい
- ・歴史のまち・文化のまち弥生時代から古墳時代の史跡や文化財が多い
- ・弥生時代の遺跡の宝庫である
- ・文化財が多くあるのに知らない人が多い大人にも理解してもらいたいが、小学生に是非伝えて行きたい
- ・エコを実践している方へ実績に応じて認める（例ーごほうびなど
- ・やよい福祉バスの運行

不十分なもの

- ・昼間人口と夜間人口の差いわゆるベッドタウンゆえのいいところ良くないところの考察
- ・[91]市に対する愛情がうすい
- ・[15]春日市内での働く場所作り
- ・固定資産税を納めているが、納税がたいへん
- ・[69]地域社会地区世話人
- ・地区公民館の利用
- ・[24]緑地
- ・[24]環境少ない
- ・[23]環境意識
- ・[77]
- ・[12]税アップ
- ・校区の再編 1地区に1校区ごと、こども会の統一を図る
- ・[42] 校区,都市整備
- ・[68]教育(しつけ),父親
- ・[60]教育の充実
- ・[60]30人以下学級の推進
- ・[20]子育て支援 親と子
- ・[63]人間関係,食育
- ・[83]誇れるものがない
- ・[84]奴国の丘
- ・[85]誇りを知らない
- ・[84]、[87]誇れるものがない
- ・[87]案内板 ー 不十分
- ・歴史をシティーセールスにする 福岡都市圏、県、九州→日本→世界へむけて
- ・[88]市民認識不足
- ・道路標識に線だけでも良いから、道順等を補足したら 知らない人でも行けるのでは？
- ・[93]遺跡などのPR
- ・[93]不足
- ・[94]望むもの奴国の丘
- ・[95]春日市のことをもっと学ばせたい
- ・[28]コンワ会の紙袋は廃止
- ・[29]ペーパーレス
- ・資源ゴミの回収に一考を要す
- ・[52]都市整備 案内看板・不明
- ・[46]～[49]コミュニティバスの利用が不十分（バスセンターに市の窓口を）
- ・コミュニティバスの回数券があればよい
- ・コミュニティバスの運行時間と間隔
- ・[47]コミュニティバス
- ・[54]コミュニティバスののりかえ方式
- ・[54]
- ・[32]防犯
- ・[32]知識不足 防犯
- ・[40]交通-防犯
- ・[05]
- ・[3]高齢者
- ・[03]高齢者
- ・高期高齢者の独居の対応
- ・[08]しょうがい者
- ・[74]地域社会の
- ・[71]一人暮らしの高齢者
- ・[71]
- ・[71]-[74]地域社会

ブルー														
良いところ														
ピンク														
もうひとつ														
環境問題	人口密度が高い都市だが 住(自然)環境が良い 池や緑が多い	大河川もなく、平野部に あるため、自然災害が少ない。	住環境がよい (大都市でもなく田舎でもない)	比較的に若い人の町である	昼間人口と夜間人口の差 いわゆるベッタタウンゆえの いいところ 良くないところの 考察	91 市に対する 愛情がうすい								
		大きな工場がないために 公害問題が少ない	上下水道がほぼ100% 整備されている	自治会組織の充足	地域公民館の充実	市長出前トーク	コスト削減目標が 実現できれば その評価をしてほしい	15 春日市内での働く 場所作り	固定資産税を納めている が、納税がたいへん					
行政	行政の取り組みが良い 市長トーク・市民懇話会など 前向き・地域の声が届きや すい	景気の動向に左右されにく い 街である	69 地域社会 地区世話人		地区公民館の利用	24 緑地	24 環境 少ない	23 環境意識	77	12 税アップ				
	市の財政は法人が少ない のである意味健全 工場が少ないので公害の 心配がない	市域が小さいため、行政の 目 がとどきやすい												
	教育や子育て支援に 尽力している「学童保育」が 全国から見学者が多い	児童・生徒の通学距離が 短かい	校区の再編 1地区に1校区ごと、 こども会の統一を図る	校区 42 都市整備	教育(しつけ) 68 父親	60 教育の充実	30人以下学級の推進 60	子育て支援 20 親と子	63 人間関係 食育					
		春日市民が誇りに思えるような 日本一や世界で一番という 企画を立案し、PRする												
教育子育て	市民のまちづくりへの関心 意識が高い ボランティアの意識良好	ボランティア活動を している学生や市民に 対する評価	子供に総理大臣や博士や スポーツ選手になるような夢を 持てほしい					コミュニティバス (やよい)	コミュニティバスの利用 が不十分 46~49 (バスセンターに市の窓口 を)	高齢者問題				
歴史と文化	歴史のまち・文化のまち 弥生時代から古墳時代 の史跡や文化財が多い	弥生時代の遺跡の宝庫 である	文化財が多くあるのに 知らない人が多い 大人にも増強してもらいたい が、小学生に是非広めて行きたい	歴史をシティーセールスにする 福岡都市圏、県、九州 → 日本 一世界へむけて					やよい 福祉バスの運行	コミュニティバスの 回数券があればよい	05	3 高齢者	03 高齢者	
	83 誇れるもの がない	84 奴国の丘	85 誇りを知らない	84、87 誇れるものない	87 案内板 不十分	88 市民認識不足	道路標識に線だけでも 良いから、道順等を補足 したら、知らない人でも 行けるのでは？	コミュニティバスの 運行時間と間隔				高期高齢者の独居の対応		
			エコ				93 イセキなどの PR	93 不足	94 望むもの 奴国の丘	春日市のことを 65 もっと学ばせたい	52 都市整備 案内看板・不明	47 コミュニティバス		08 しょうがい者
		エコを実施している 方へ実績に応じて 認める(例ーごほうびなど	28 コンプ金の 紙袋は廃止	29 ペーパーレス	資源ゴミの回収 に一考を要す				コミュニティバスの のりかえ方式 54	54		71	74 地域社会の	
									交通・防犯	32 防犯	知識不足 32 防犯	40 交通・防犯	71~74 地域社会	71 一人暮らしの高齢者

第30回 意見のまとめ ②

2班（模造紙での具体的な意見）

意見	
教育関連	・学校教育先進的 ・教育システムが全国的に注目を浴びている ・日の出小学校の運動会地区老人会と一緒に参加して運動会しているがとても良い ・小・中学校の学力向上努力の成果 ・小学校6年生の30人以下学級はとても良い
歴史・文化	・歴史・文化を大事にする ・歴史文化、財豊富 ・歴史の中心であった所（弥生時代）大きな存在感がある ・古い文化が沢山ある
市民と行政	・市長が気軽に積極的に市民に接している ・市民の声を直接聞く姿勢 ・市民が春日市を好き。一生懸命 ・まちづくりに熱心（塾）（各部） ・自治会運営改革
公共施設 市のイベント	・福祉・厚生施設が概ね整備・充実している ・スポーツ施設の充実 ・公共施設が多くてきれい ・福岡市に隣接している点で、公共の活動がしやすい ・イベントや催し物が盛ん ・あんどん祭り
市政運営	・財政赤字の着実改善 ・効率的運営（職員／市民） ・防犯体制の強化 ・障害者支援、子育て支援に尽力 ・地下水等、水に対する対策が良い ・工場等が少なく学園文化都市としてほこれる ・緑が多い
不十分なもの	
福祉支援 障害者	・[01][09]高齢者、障害者支援が財源、不足によりやや低下傾向 ・[10][11][16]
住環境整備 環境 防犯 都市整備	・[22][28][29] ・[2-31]犯罪発生件数が多い ・[2-31]人口の割に交番所が少い ・[42] ・[46]～[49]公共交通機関の整備 ・[49][52][45][55] ・[50]春日原駅前の開発・整備 ・[50]住宅内道路の拡張整備 ・[50]下水道整備事業の遅れ→冠水道路多し
コミュニティの活性化 教育の充実 人間関係の構築 地域社会の構築	・[56] [58] × 2 [59] × 2 [60] × 2 [61] × 3 ・[63][64][67] × 2 ・[69][73]
春日市の未来像 春日市の誇れるもの 春日市の財政 春日市に望まれるもの	・[83][84][85][86][87][88] ・[82] × 2 ・[90] × 2 [94] × 3 [96] × 3 [95] [91] [93] × 3

教育関連

学校教育
先進的

教育システムが
全国的に注目を
浴びている

日の出小学校の運動会
地区老人会と一緒に参加
して運動会しているが
とても良い

小・中学校の学力向上
努力の成果

小学校6年生の30人以下
学級はとても良い

歴史・文化

歴史・文化を
大事にする

歴史文化
財豊富

歴史の中心であった所
(弥生時代)
大きな存在感がある

古い文化が沢山ある

【2班の発表①(模造紙)】

特異なよいところ

市民と行政

市長が気軽に積極的
に市民に接している

市民の声を直接聞く姿勢

市民が春日市
を好き。一生懸命

まちづくりに熱心
(塾) (各部)

自治会運営
改革

公共施設 市のイベント

福祉・厚生施設が
概ね整備・充実
している

スポーツ施設
の充実

公共施設が
多くてきれい

福岡市に隣接している点で、
公共の活動がしやすい

イベントや
催し物が盛ん

あんどん祭り

市政運営

財政赤字の
着実改善

効率的運営
(職員／市民)

障害者支援、
子育て支援に尽力

工場等が少なく
学園文化都市としてほこれる

防犯体制
の強化

地下水等
水に対する対策が良い

緑が多い

1～21

1

高齢者、障害者支援が
財源、不足により
やや低下傾向
01 09

障害者

10

11

16

福祉支援

住環境整備

環境

22

28

29

防犯

犯罪発生件数が多い
2～31人口の割に交番所が
少い
2～31

42

22～55

2

都市整備

公共交通機関の整備
46～49

49

春日原駅前の
開発・整備
50住宅内道路の
拡張整備
50下水道整備事業の
遅れ
→冠水道路多し
50

52

45

55

56～90

3

教育の充実

56

②
58②
59②
60☆
③
61人間関係
の構築

63

64

67

67

地域社会
の構築

69

73

コミュニティの活性化

春日市の未来像

4

春日市の
誇れるもの

83

84

85

86

87

88

春日市の財政

②
82春日市に
望まれるもの②
90

91

☆
③
94☆
③
93☆
③
96

95

【2班の発表②(模造紙)】

② 意見の数

☆ トップ1

第30回 意見のまとめ ③

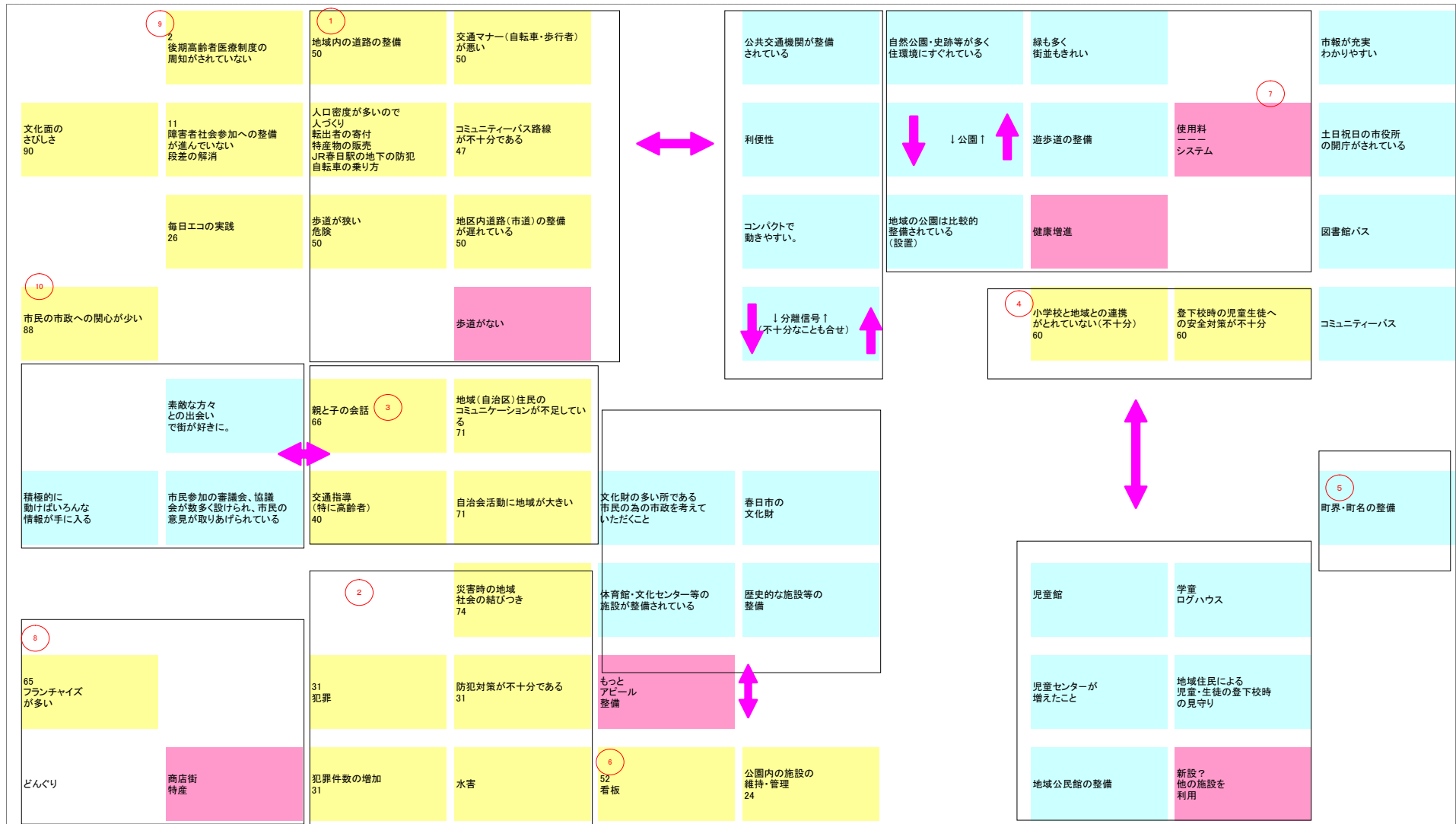
3班（模造紙での具体的な意見）

意見

- ・[90]文化面のさびしさ
- ・[2]後期高齢者医療制度の周知がされていない
- ・[11]障害者社会参加への整備が進んでいない段差の解消
- ・[26]毎日エコの実践
- ・[88]市民の市政への関心が少ない
- ・素敵な方々との出会いで街が好きに。
- ・積極的に動けばいろんな情報が手に入る
- ・市民参加の審議会、協議会が数多く設けられ、市民の意見が取りあげられている
- ・[65]ランチサイズが多い
- ・どんぐり
- ・商店街特産
- ・[50]地域内の道路の整備
- ・[50]交通マナー（自転車・歩行者）が悪い
- ・人口密度が多いので人づくり転出者の寄付特産物の販売JR春日駅の地下の防犯自転車の乗り方
- ・[47]コミュニティーバス路線が不十分である
- ・[50]歩道が狭い危険
- ・[50]地区内道路（市道）の整備が遅れている
- ・歩道がない
- ・[66]親と子の会話
- ・[71]地域（自治区）住民のコミュニケーションが不足している
- ・[40]交通指導（特に高齢者）
- ・[71]自治会活動に地域が大きい
- ・[74]災害時の地域社会の結びつき
- ・[31]犯罪
- ・[31]防犯対策が不十分である
- ・[31]犯罪件数の増加
- ・水害
- ・文化財の多い所である市民の為に市政を考えていただくこと
- ・春日市の文化財
- ・体育館・文化センター等の施設が整備されている
- ・歴史的な施設等の整備
- ・もっとアピール整備
- ・[52]看板
- ・[24]公園内の施設の維持・管理
- ・公共交通機関が整備されている
- ・利便性
- ・コンパクトで動きやすい。
- ・分離信号（不十分なことも合せ）
- ・自然公園・史跡等が多く住環境にすぐれている
- ・公園
- ・地域の公園は比較的整備されている（設置）
- ・緑も多く街並もきれい
- ・遊歩道の整備
- ・健康増進
- ・使用料ーシステム
- ・[60]小学校と地域との連携がとれていない（不十分）
- ・[60]登下校時の児童生徒への安全対策が不十分
- ・児童館
- ・学童 ログハウス
- ・児童センターが増えたこと
- ・地域住民による児童・生徒の登下校時の見守り
- ・地域公民館の整備
- ・新設？他の施設を利用
- ・市報が充実わかりやすい
- ・土日祝日の市役所の開庁がされている
- ・図書館バス
- ・コミュニティーバス
- ・町界・町名の整備

【3班の発表(模造紙)】

① グループ分けの番号



The background of the page is a light pink gradient. It is decorated with several stylized, grey leaf-like shapes of various sizes and orientations, scattered across the page. These shapes have a simple, wavy outline.

意見の集約

(問題提起 トップ10等)

意見の集約①

～ 不十分なところトップ10 ～

順位	不十分なところ	内容	意見数
①	[50]道路整備において、田舎道に入ると、馬車道のようにカーブが多い。	都市整備	7
②	[60]小学6年生以外も30人以下学級にしてはどうか。一番の原点は家庭での教育だが、学校は家庭も指導するぐらいの教育があってもいいのではないか。	教育の充実	6
②	[71]ひとり暮らしの高齢者などは、災害時にどこに行けばよいか、情報が伝わってこない。	高齢者対策	6
④	[31]筑紫野警察署管内では、犯罪件数が平成19年は全国2位であるが、どうすれば犯罪が防げるか。	防犯	5
④	[93]奴国の丘や貴重な遺跡があるにもかかわらず、PRが足りず、知らない人も多い。	歴史・文化	5
⑥	[47]コミュニティバスについて、外側の環状線を考えてはどうか。	コミュニティバス	4
⑥	[87]駅などの案内板を充実させてはどうか。お宝百選などいろいろな場所を紹介してはどうか。	歴史・文化	4
⑥	[94]奴国の丘や遺跡について、歴史や文化と結び付けて、子どもたち、親や大人に案内するのがよいのではないか。	歴史・文化	4
⑥	[96]市民が春日市を誇りに思えるような、また、日本や世界で一番という企画を立案し、市外へ大きくPRしてはどうか。	望まれるもの	4
⑩	[24]環境のためには、公園、緑地が必要。	環境	3
⑩	[46]コミュニティバスについて、待ち時間が約35分で、乗り遅れると待ち時間が50分と長い。	コミュニティバス	3
⑩	[48]コミュニティバスについて、回数券は販売してはどうか。	コミュニティバス	3
⑩	[49]コミュニティバスについて、催しに間に合う時間帯を設けてはどうか。	コミュニティバス	3
⑩	[52]春日市は看板がわかりにくい。統一的に整備してほしい。	都市整備	3
⑩	[61]資料館来場者が少ないので、目標来場者数を設定してはどうか。来場者に何か1つでも印象に残るものをつくるべきではないか。	歴史・文化	3
⑩	[74]災害等が発生したとき、地域社会の結びつきが大切になる。	災害	3
⑩	[84]奴国の丘歴史資料館を知らない人も多く、道々の看板が見つけにくい。目立たない紫色の看板になっている。	歴史・文化	3
⑩	[88]市民がいろいろなことを知ることで、誇りに思えることも増えてくるのではないか。	誇れるもの	3
⑩	[90]文化面での予算が縮小してきている。	歴史・文化	3

意見の集約②

～ 良いところ ～

項 目	主 な 意 見
住環境が良い	工場が少なく自然が多い
	公共施設が充実している
	道路、下水道が整備されている
歴史・文化が多い	歴史文化財が豊富
教育行政が良い	小学校6年生の30人以下学級はとてもよい
	先進的な教育行政が行われている
市民の意見が取り入れられる	出前トーク、市民懇話会などの 市民の声を聞く姿勢がよい

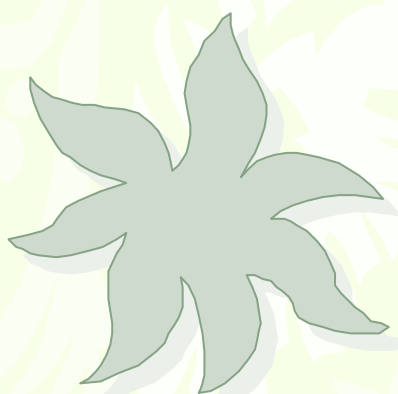
不十分なところでもっとも多かった意見は、「道路整備について」でした。続いて、「30人以下学級の拡充」と「独居高齢者対策」となっています。また、「歴史・文化」及び「コミュニティバス」について、多くの意見がありました。

良いところについて、類似項目で集計したところ、不十分なところで多く意見のあった、都市整備を含む「住環境」、「歴史・文化」、「教育行政」等についての意見でした。



資料編

- ・ 第4期会員からのメッセージ48
- ・ かすが市民懇話会会員名簿57



2年間を振り返って（春日市市民懇話会に参加して）

私が市民懇話会に参加したのは、子供の環境、生活圏の環境向上を願い、その意見等々を市長及び行政の方々に伝えたいと思うとともに、一緒に議論をしたく参加致しました。

数回参加をし、仕事の関係で参加できなくなりましたが、その数回の参加で、他の方々のいろんな意見をお聞きする事ができ、大変、有意義な時間を過ごすことができました。

他に思う事は、参加時に他の方も言われてましたが、今までの懇話会で討議されてきたことが、結果としてどう行政へ反映されているのか？、地域社会へ反映されたのかが分らないなということでした。

懇話会に参加した人たちは、市長、行政の方々へ思いを伝えたくて、また、春日市がよくなればと思い、懇話会へ参加をしていると思いますので、懇話会での討議結果がどうなったかのフィードバックがあれば、よりよい懇話会になると思います。

今回は仕事の関係上、最後まで参加できませんでしたが、また、機会があれば参加したいと思います。

ありがとうございました。

2年間を振り返って

永住の地と決めた春日市、住みやすい春日市に…と望みを抱いて張り切って、さすが市民懇話会に応募させて頂いたが、毎回色々な問題提起の中にあまりにも春日市の歴史、行事等知らない事が多く、知る事の勉強だった様に思います。

毎回市長は出席して下さり、多忙の中、脱帽の感じで、感謝しています。

市長が住民の言葉を聞いて、参考にと思われる事に対して、春日市民として恥じない様に生活していきたいと思います。又、自分の出来る事で、春日市にお役に立てる事があればと思いながら、大谷公民館で伝統文化いけばな教室を小学生を対象に行っています。植物の生命から、自分を大切にすることを、共に学び喜んで帰る姿をみて嬉しく思います。春日市民が、常識のある市民である事を願いながら、グループで語り合い、春日市について、もっともっと知る事を学ぶ様、努力したいと思いました。

行政管理担当者方々のお世話にも感謝申し上げます。

2年間を振り返って

あっと云う間の2年間でした。

知らなかった春日市を色々な角度から知る事が出来ました。

良いなと思った事は、学校関係です。全国でも上位にランクされる学力もさる事ながら、行政としての取り組みが素晴らしいと思います。

約20年程前に研修の翼で訪れたボストン市のチャイニーズスクールのチャン校長の取り組みに感心しました。春日でも是非に思っていたら所、コミュニティスクールとして、市内全校で取り入れられている事を知り、未来を背負う子ども達の成長に“バンザイ”とさけびたい様です。

今後は機会があれば高齢者問題を勉強したいと思います。これは、自分自身のことでもありますので…。

一つだけ、とっても嫌な思い出があります。第2回の集いで役員決めと計画を話し合う時に副会長と男性会員の方との大声でのやりとりは驚きでした。その後1年間は緊張のしっぱなしでしたが、序々に会の雰囲気にも慣れて、自分のペースで参加できました。

後半は大変居心地の良い会でした。

ありがとうございました。

2年間を振り返って

お世話になります。春日市の未来が少しでもより良いものになればと応募してからあっという間に2年が経ちました。

主人の仕事の都合で初回しか参加できないという結果になってしまいましたが、この2年の間に、あたしが希望してた第三子の保育料無料化が実現したし、出産一時金の給付額が増額したりと、子育て支援がずいぶん優遇されてきたと思います。

子育て真っ最中の方の率直な意見も懇話会で反映していただきたいので、できれば子供がいても参加しやすい体制であると、なお嬉しく思います。たとえば子育て真っ最中世代の人数を増やしたり、ちょっとした託児めいたものがあったり・・・。

これからもお年寄りや子供そして働き盛りのわたしたちにとっても住みやすく明るい地域社会を目指し頑張りたいと思います。

2年間ありがとうございました。

2年間を振り返って

皆さま、2年間ありがとうございました。

会員の皆さまと知り合い種々意見交換ができたこと、また市長およびスタッフの皆さまとも交流することができたことなど、とても充実した2年間でした。

「市民の皆さんから直接、“思いや要望など”を聴いて、市民と共に協働する行政」を、基本としておられる市長の熱い思いをひしひしと感じつつ、真剣にかつ楽しく待ち遠しく臨んだ懇話会でした。

勉強（講話／チューターの助言等）、会員との意見交換、市のスタッフの方々との交流を通じて、仲間／ネットワーク作り、春日市の現状認識、など大いなる財産を得ることが出来たと思います。それらを大切に、これからの活動などに生かしていきたいと思っています。今後もよろしくお願いします。

2年間を振り返って

かすが市民懇話会に参加する前に《 春日市の好きなところ。これからの春日市がかわってほしいところ 》というようなことのレポートを出したように記憶しています。私は、春日市の市民になって40年になります。春日市のなかで、いろんな活動が活発に行われています。市民は自由に意見を述べて、また、学べる環境にあります。私は、春日市に関心があり、ここ数年はいろんな勉強会と春日市で春日市支援センターぶどうの庭で活動をしています。

市民懇話会で、環境、学校教育、行政等について意見を自由に出し合いレベルの高い意見が数多く出されたことに驚き感心しました。

環境については、エコをどのように生かしているか、これからどのようにすべきかなど考え今後に生かすことの確認等をしました。

学校教育については、日本のなかで先がけて地域が参加できる地域参加型（コミュニティスクール）の学校教育をされて、児童と地域から参加している人たちとの協同や相互間で思いやりができていることはすばらしいことだと思います。私も参加できるチャンスがあれば、ぜひ参加したいと思っています。

行政等については、今年から自治会の組織が変わったことで地域住民の関心を持ったことではないでしょうか。また、地区世話人報酬がなくなりましたが、市から自治会に交付金としてくるため、地域で考え有意義に使うことに各区住民が関心をもったことは大きな市民参加の変化であると思います。

春日市は、環境、交通機関、学校教育、福祉も他の市町村より恵まれています。そして市長は、「市民が真ん中の行政を」と言われていたように記憶しています。

市民は地域から参加して、市長トーク等にも多くの参加される方々が増えることを願います。

市民懇話会に多くの人が参加していただき、春日市の中に素晴らしい人材が数多くおられるようですので、その人たちからのアドバイスをしていただくことにより、市民レベルアップになると考えます。

私もまだまだ知識を高めるチャンスを求めたいと思っています。

2年間を振り返って

二年の時間を振り返って、春日市に住んでいると言う共通点だけで色々な年齢・環境・歴史を持った方々と「より良い春日」をテーマに懇話を重ねる事が出来て楽しかったです。

私の知らない春日に出会い、私の良く知っている春日を再認識する事ができ、懇話会に参加することで、ただ住んでいるだけでなく住民の意見を伝える事が出来る場がある事は素晴らしい事だと思いました。

たくさんの認識されていなかった課題、すべてが消化できたとは言えないけれど、自分の中で認識できた事・認識して生まれた新しい課題がたくさんあります。

この会を卒業して地域の中で、この課題に自分なりに答えをみつけていきたいと思います。春日で生まれた息子が春日で育ち、自分のためだけでなく、たくさんの人達の役に立てる大人になってくれるようにがんばっていききたいと思います。

2年間を振り返って

現在の市民懇話会、会員の方々、そして特に今も地域でボランティア活動をおられる、懇話会OBの方々に対し、今、任期を終える者の一人として感謝の言葉を申し上げ、今後の一層のご発展を祈念しています。

私は応募作文に、第4次春日市総合計画（平成12年12月策定）並びに毎年の施政方針、市議会による事業分野の推進事項、審議承認を基底にその初心を申し述べました。

市長から依頼書を受け、任期中はお世話担当の行政管理課をはじめ、関係の課等からの極めて貴重な資料を手元にして、会の趣旨に沿いながら、書記、司会、発表、実に価値ある時間でした。

この市民懇話会は、市長の出前トークと共に市特有の誇りと考えます。両運営ともに各々その得られる特長がありますが、市民懇話会の構成メンバーは、男女、年齢、各種団体、各ボランティア有志者等々、市民生活、拡域にわたって、バランスが整っているようで、市民がまん中の運営だと言えるのではないのでしょうか。

加えて、市長が毎回出席されて、各班別の討論その内容の発表に対して短時間でも、適切なコメントをされると「今日も出席して良かった」と次回の希望を抱いて退場して家路へ向うのは私だけでしょうか。

さて、任期中、感動したことは、まだまだありますが、紙面の都合で割愛します。

最後に、この企画運営にたずさわっている行政管理課及び関係課の方々、そして役員の皆様に心から御礼を申し上げます。

2年間を振り返って

一言で言えば、「市民の生活や環境を良くする為」の会合に参加できた事を感謝致しております。おこがましいですが、市職員の方達と市民がもっとコラボレーションをはかる場にされるともっと良い知恵が浮かびそうな感じが致しました。人間というのは、住みなれた環境が“いかに住みやすい環境であるか否か。”でいろんな“場”に影響を与えそうな感じがします。“安心して住める町、自然な形で挨拶ができる町、お年よりや子供達が一緒に遊べる町、老若男女かかわらず互いに思いやる気持ちをもてる町、そう、そこが春日市民の良いところだよね”と言われるよう、環境をみんなですくしていきたいです。

The background of the page is a light pink color. It is decorated with several stylized, grey leaf-like shapes. These shapes are scattered across the page, with some larger ones in the upper right and lower right, and smaller ones in the upper left, lower left, and center. The leaves have a simple, wavy outline.

かすが市民懇話会

第4期・第5期会員名簿

かすが市民懇話会 第4期会員名簿

（任期：平成19年7月1日～平成21年6月30日）

番号	名前	住所	備考
1	伊藤 智幸	春日	市民公募会員
2	上野 直麻子	泉	市民公募会員
3	大石 昭子	春日原北町	市民公募会員
4	川田 絵美	昇町	市民公募会員
5	塚本 幸弘	宝町	市民公募会員 平成19年度 副 会 長 平成20年度 会 長
6	森 俊子	須玖北	市民公募会員 市民懇話会第2期会員（公募会員）
7	山田 恵美	大和町	市民公募会員 平成19年度 副 会 長 平成20年度 副 会 長 市民懇話会第2期会員（公募会員）
8	横山 信美	白水池	市民公募会員 市民懇話会第2期会員（公募会員）
9	渡辺 昌代	白水ヶ丘	市民公募会員

かすが市民懇話会 第5期会員名簿

（任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日）

番号	名前	住所	備考
1	伊藤 信輔	一の谷	市民公募会員
2	上野 元公	大和町	市民公募会員
3	梅崎 孝彦	須玖北	市民公募会員
4	大坂 康	春日原東町	市民公募会員
5	柿本 人司	福岡市 南区日佐	市民公募会員
6	黒川 裕子	日の出町	市民公募会員
7	齋藤 泰英	一の谷	市民公募会員
8	進 まゆみ	平田台	市民公募会員
9	中村 文香	日の出町	市民公募会員 平成20年度 副 会 長
10	三室 日朗	須玖南	市民公募会員 市民懇話会第3期会員（公募会員） 平成20年度 副 会 長

かすが市民懇話会 第5期会員名簿

（任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日）

番号	名前	住所	備考
11	池田 正廣	日の出町	団体推薦会員 春日市体育協会
12	井口 謙氏	宝町	団体推薦会員 春日市小中学校PTA連絡協議会
13	小田 晴美	下白水北	団体推薦会員 JA筑紫(女性部)
14	井手 秀子	須玖北	団体推薦会員 春日市文化協会
15	後藤 英之	若葉台西	団体推薦会員 春日市社会福祉協議会
16	田口 誠市	紅葉ヶ丘東	団体推薦会員 春日市子ども会育成会連絡協議会
17	多門 妙子	惣利	団体推薦会員 春日市身体障害者福祉協会
18	日田 美智子	ちくし台	団体推薦会員 みらい・かすが
19	福富 克一郎	平田台	団体推薦会員 春日市老人クラブ連合会
20	藤瀬 淳也	若葉台西	団体推薦会員 春日市商工会